

竹屋化学研究所
サステナビリティレポート2025

私たちの思い	代表者 メッセージ	竹屋化学に ついて	価値創造 ストーリー	Laboratory	環境の取り組み	社会の取り組み	ガバナンス構築	進捗情報	今後の展望
--------	--------------	--------------	---------------	------------	---------	---------	---------	------	-------

01. 私たちの思い
02. 代表者メッセージ
03. 竹屋化学について
04. 価値創造ストーリー
05. Laboratory
06. 環境の取り組み
07. 社会の取り組み
08. ガバナンス構築
09. 進捗情報
10. 今後の展望



会社概要

株式会社竹屋化学研究所
本社 〒577-0056
大阪府東大阪市長堂2丁目3番21号 布施駅前ビル4階
工場 〒528-0056
滋賀県甲賀市水口町泉1078-1
創業 1908年8月(明治41年)
設立 1938年4月(昭和13年)
資本金 3,000万円
社員数 21名(2026年2月現在) ※役員を除く

竹屋化学研究所 サステナビリティレポート2025

私たちの思い	代表者 メッセージ	竹屋化学に ついて	価値創造 ストーリー	Laboratory	環境の取り組み	社会の取り組み	ガバナンス構築	進捗情報	今後の展望
--------	--------------	--------------	---------------	------------	---------	---------	---------	------	-------

編集方針

竹屋化学研究所(以下「当社」)が発行する『サステナビリティレポート』は、当社が時代とともに変化しながら取り組んできた社会・環境課題解決への活動を広くお伝えするためのものです。

私たちは、単に技術的な進展を追求するだけではありません。社員が仕事に込める想いや、ステークホルダーの皆様との温かい繋がりを通じて生み出される「価値」にこそ、当社の真髓があると信じ、本レポートではその側面にも光を当てています。

昨今の急激な社会情勢の変化のなかで、研究所として果たすべき責任はより一層大きくなっています。私たちはこれからも、伝統のなかで培った知恵と革新的な技術を融合させ、次世代へより良い地球環境を引き継ぐための挑戦を続けてまいります。

本レポートを通じて、持続可能な社会の実現に向けた当社の歩みをご理解いただき、皆様との未来に向けた対話や、新たな価値創造のきっかけとなれば幸いです。

報告概要

報告期間:2025年度(2025年3月~2026年2月)
発行日 :2026年3月16日

将来見通しに関する注意事項

この報告書に記載されている意見や見通しは、報告書作成時点における当社の見解であり、その情報の正確性および完全性を保証または約束するものではありません。このため将来の業績は当社の見込みとは異なる可能性があります。

情報開示体系



竹屋化学研究所 サステナビリティレポート 2025

私たちの思い

代表者
メッセージ

竹屋化学に
ついて

価値創造
ストーリー

Laboratory

環境の取り組み

社会の取り組み

ガバナンス構築

進捗情報

今後の展望

わたしたち
の思い

未来を変える挑戦場、それが私たちのLaboです。

Laboとは、単なる研究所ではなく、持続可能な未来を探求し、社会課題に挑み続ける「場」そのものを意味しています。

私たちが挑むのは、大きな声に隠れて見過ごされがちな問題や、解決が難しいとされてきたニッチなテーマです。誰も手をつけていない社会課題に、あえて挑むことこそが私たちの使命です。

このLaboでの挑戦は、社員一人ひとりの発想や行動から生まれます。お客様やパートナー企業との絆を大切に、共に考え、共に形にする「共創のプロセス」を通じて実を結びます。

そこから生まれる製品は、独自の技術と高い品質を備え、社会課題の解決に貢献します。

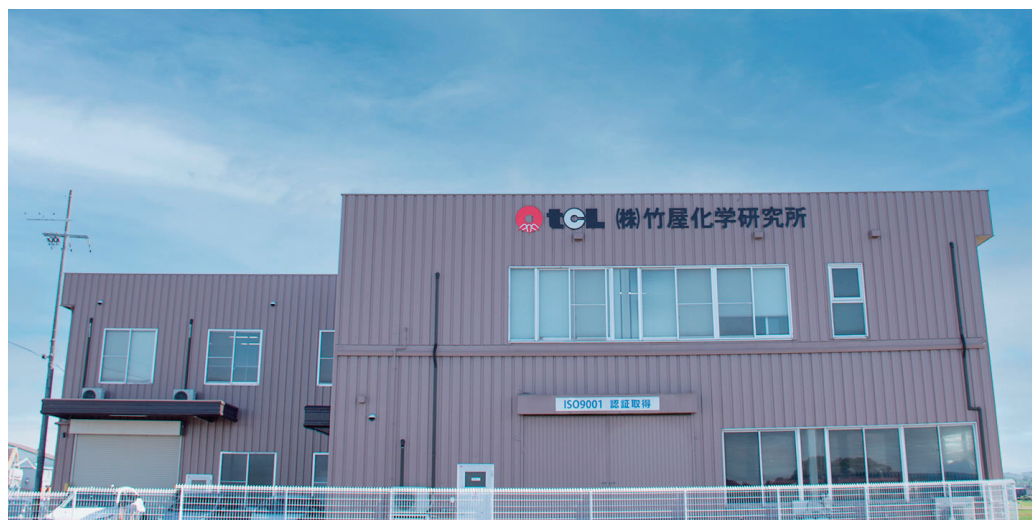
私たちはサプライチェーンや地域とのつながりを広げながら、「社会に役立つ組織」としての責任を果たし続けます。

そして今も、私たちはLaboとしての歩みを止めず、持続可能な未来への価値創造に挑戦しています。



旧事務所兼工場(大阪府東大阪市)

現在のLabo



竹屋化学研究所 サステナビリティレポート2025

私たちの思い

代表者
メッセージ

竹屋化学に
ついて

価値創造
ストーリー

Laboratory

環境の取り組み

社会の取り組み

ガバナンス構築

進捗情報

今後の展望

代表者
メッセージ



代表取締役社長
竹谷 裕人

1993年に専門商社を経て入社。研究開発を担当した後、営業部門へ異動し取締役役に就任。その後、品質管理部門を経験。2008年には専務取締役役に重任、統括業務を経験し、2010年に取締役社長に重任し、現在に至る。長年にわたる研究開発、営業、品質管理という多岐にわたる部門での経験は、会社の事業を多角的に理解する基盤となる。この経験を通じ、企業活動が社会や環境に与える影響の大きさを痛感し、恒久な社会の実現と企業価値の向上を両立させる「サステナビリティ経営」を最重要課題と位置づけ、変革を主導。多様なステークホルダーとの対話を通じて、未来に向けた挑戦を継続中。
★社外の取り組み(東大阪西ロータリークラブ会長、布施防犯協会会員、東大阪商工会議所会員)
好きな食べ物は鰻。趣味はカラオケとゴルフ。

ご挨拶

第2回サステナビリティレポートをご覧いただき、誠にありがとうございます。
本レポートは、前回の発行で得られた多くの反響と学びを踏まえ、当社の現在地とこれからの方向性をより明確にお伝えすることを目的に作成しました。
当社は、社是である「開拓者精神」と、ステークホルダーの皆様との「絆」を大切にしながら、事業を通じて社会課題・環境課題の解決に取り組んできました。サステナビリティとは特別な活動ではなく、事業を継続し、価値を生み出し続けるための経営そのものだと考えています。

前回のサステナビリティレポートに対するステークホルダーの反応はいかがでしたか？

前回のサステナビリティレポートは、当社にとって初の試みでした。
少人数の中小企業でありながら、社員主体でESGの取り組みを整理し、発信している点について、株主や金融機関をはじめ多くのステークホルダーの皆様から驚きと評価の声をいただきました。
特に、専門部署ではなく、各部署から選抜された社員が中心となって作成している点は、当社らしさを象徴する取り組みであり、社員一人ひとりにサステナビリティが根付いていることの表れだと受け止めています。

今回のサステナビリティレポートに込めた思いを教えてください

当社が考えるサステナビリティとは、社員の安心と成長、企業の安定経営、そして事業を通じた社会への貢献を両立させることです。社員を守り、社員が生み出す価値によって社会に貢献する。その循環を持続させることこそが、企業としての責任であり存在意義だと考えています。本レポートは、取り組みや考え方を整理した「羅針盤」と言えます。

竹屋化学研究所 サステナビリティレポート2025

私たちの思い	代表者 メッセージ	竹屋化学に ついて	価値創造 ストーリー	Laboratory	環境の取り組み	社会の取り組み	ガバナンス構築	進捗情報	今後の展望
--------	--------------	--------------	---------------	------------	---------	---------	---------	------	-------

「今回のレポートにL(Labo)」を加えた理由はなぜですか？

今回、当社独自の考え方として「ESG」に「L」を加えました。このLは、社名にもあるLaboratory(研究所)を意味しています。当社は近年、単なる製造メーカーから、課題解決を目的とした研究提案型の企業へと転換してきました。取引先や社会との「絆」の中から課題を見つけ、研究を通じて解決策を形にする。この姿勢こそが、当社のESGの中核です。

私たちは、研究と提案を通じて、社会にとって本当に意味のある価値を生み出す企業であり続けたいと考えています。

サプライチェーン全体で、環境負荷低減のためにどのような働きかけを行っていますか？

サプライチェーン全体で、環境負荷低減のために、効率化と意識改革の両面から積極的に働きかけを行っています。具体的には、配送の最適化によるCO2排出量削減を目的とした「まとめ配送」の依頼を強化しています。

また、環境に配慮した製品のPRを行うことで、市場全体のサステナブルな消費行動を促進しています。さらに、プラスチック廃棄物削減の象徴的な取り組みとして、梱包材の「PPバンドの使用を無くす」チャレンジを推進しており、これらの施策を通じて、サプライチェーン全体の持続可能性の向上を目指しています。

ESGの観点は、経営戦略にどのような影響を与えていると考えられますか？

当社では、ESGを「事業と切り離された取り組み」とは考えていません。事業の成長がそのまま社会課題・環境課題の解決につながる事が理想であり、その実現を目指しています。社員への投資、適正な価格転嫁、安定した利益の確保。これらすべてが、会社・社員・ステークホルダーの「三方よし」を実現するための経営戦略です。



代表者
メッセージ

サステナビリティ浸透に向けた意識改革やモチベーション向上のために、どのような取り組みや経営層からの発信が行われていますか？

当社では、サステナビリティを「事業継続(BCP)」と同義に捉えています。事業が継続してこそ、社員の安心が守られ、社会への責任も果たせる。その考えのもと、取締役会では中長期視点での設備投資や人的投資について積極的に議論し、経営企画室を中心に社内へと方針を浸透させています。こうした積み重ねが、社員の意識改革や主体的な行動につながっていると考えています。

ステークホルダーの皆様に対するメッセージをお願いします！

本レポートを通じて、当社が短期的な利益だけでなく、将来を見据えた投資と挑戦を続けていることを感じていただければ幸いです。社員への人的投資をはじめ、持続可能な成長に向けた取り組みを重ねることで、社会にとって必要とされ続ける企業でありたいと考えています。今後とも、変わらぬご理解とご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

私たちの思い	代表者 メッセージ	竹屋化学に ついて	価値創造 ストーリー	Laboratory	環境の取り組み	社会の取り組み	ガバナンス構築	進捗情報	今後の展望
--------	--------------	--------------	---------------	------------	---------	---------	---------	------	-------

竹屋化学について 役員紹介 沿革 ハイライト 第三者認証

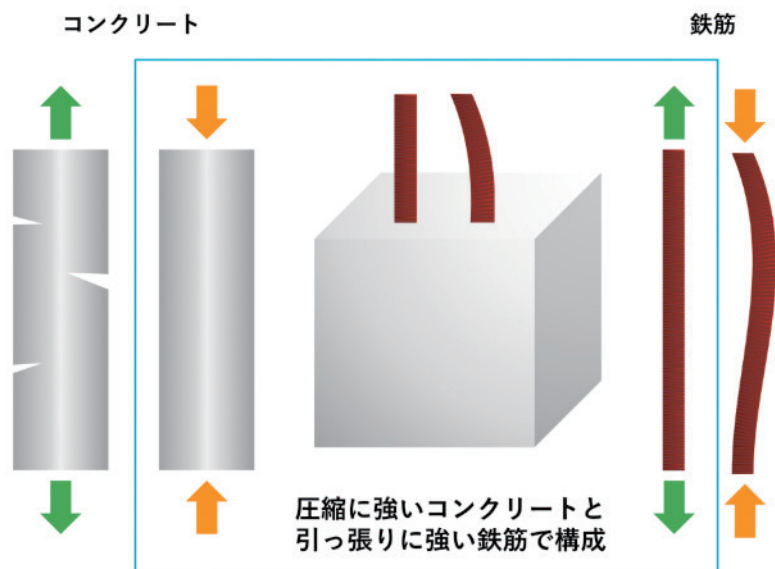
どんな会社なの？

当社は創業117年の住宅製品を開発から販売までを行う会社(Labo)です。主力事業として住宅の基礎に使うセメント加工品を製造販売しています。業界のリーディングカンパニーとして培ってきた経験と、SDGsなどの未来に向けた積極的な挑戦を融合させ、住宅基礎の未来を守ります。

住宅基礎とはなにか

住宅基礎は、家を建てる時の土台となるコンクリート部分を指します。地面と建物をつなぐ重要な役割を担い、主にコンクリートと鉄筋の二つの素材で構成されています。

『コンクリート』は圧縮力に対する抵抗を担い、『鉄筋』は引張力に対する抵抗を担います。双方の利点が組み合わさることで、地震などの様々な方向からの外圧力に対して非常に強い構造体になります。



住宅基礎の重要性

- ①建物の安定性維持
基礎は建物の荷重を地面に均等に分散させ、建物が傾いたり沈下したりするのを防ぎます。
- ②耐震性・耐風性の確保
地震や強風などの外部からの力を受け止め、建物全体に分散させることで、倒壊のリスクを低減します。特に地震の多い日本では、基礎は「安全装置」とも言える存在です。
- ③湿気・シロアリ対策
住宅基礎は、地面からの湿気の侵入やシロアリの被害を防ぎ、建物の耐久性を高めます。

どこに塗っている製品なのか

住宅の安全性に大きく関係する基礎表面部分(足元)に塗ります。

なぜ塗るのか ⇒ 基礎を美しく、強く守るため

- ・ヘアクラックの抑制
- ・吸い上げシミ、変色、泥汚れの軽減

塗る前



塗った後



竹屋化学研究所
サステナビリティレポート2025

私たちの思い	代表者 メッセージ	竹屋化学に ついて	価値創造 ストーリー	Laboratory	環境の取り組み	社会の取り組み	ガバナンス構築	進捗情報	今後の展望
--------	--------------	--------------	---------------	------------	---------	---------	---------	------	-------

竹屋化学について 役員紹介 沿革 ハイライト 第三者認証



副社長 竹谷 理沙 経営企画室
2017年入社。営業、商品開発、経営企画室を経て2025年、取締役副社長に就任。ウェルビーイングやSDGsなど時代の先を見据えた取り組みを主導。好きな食べ物はチーズ。



専務取締役 木村 美佐 業務部
1994年入社。経理業務全般に従事。銀行時代の経験を活かし月次・年次決算、売掛金・買掛金管理、経費精算など多岐にわたる業務を経験。2025年専務取締役に就任。好きな食べ物はチョコレート。



常務取締役 二宮 哲也 製造部
1994年入社。営業部ではボクシング時代に培われた高い状況分析力と戦略的思考力で全国各地の新規顧客の獲得に献身。2018年の工場移転の際は責任者として主導。2025年に常務取締役に就任。趣味はスポーツ観戦。



取締役 竹谷 佳余子 経理部
1997年入社。長年にわたり経理・財務の実務を一手に担う。学生時代の数多くのアルバイト経験で得た、きめ細やかな視点と実務能力で効率的な事業運営に貢献。2017年に取締役に就任。訪れてよかった場所はユングフラウヨッホ(スイス)。



取締役 石野 裕次 営業部
2003年入社。営業一筋22年。野球で培った協調性と規律性を大切にチーム営業の体制を構築し売上拡大に成功。2025年に取締役に就任後も現場の意見に耳を傾け、販路拡大に尽力中。好きな食べ物はサンドゥブ。



取締役 笹川 邦彦 開発部
2009年入社。建材商社で蓄えた豊富な知識と経験で営業の傍ら多くの商品開発に携わり、基礎内側保護材『FBプロテクト』の開発を指揮。2025年に取締役に就任。最近は保護猫番組の観賞にはまっている。








竹屋化学
について

竹屋化学研究所
サステナビリティレポート2025

私たちの思い	代表者 メッセージ	竹屋化学に ついて	価値創造 ストーリー	Laboratory	環境の取り組み	社会の取り組み	ガバナンス構築	進捗情報	今後の展望
--------	--------------	--------------	---------------	------------	---------	---------	---------	------	-------

竹屋化学について 役員紹介 沿革 ハイライト 第三者認証

竹屋化学
について

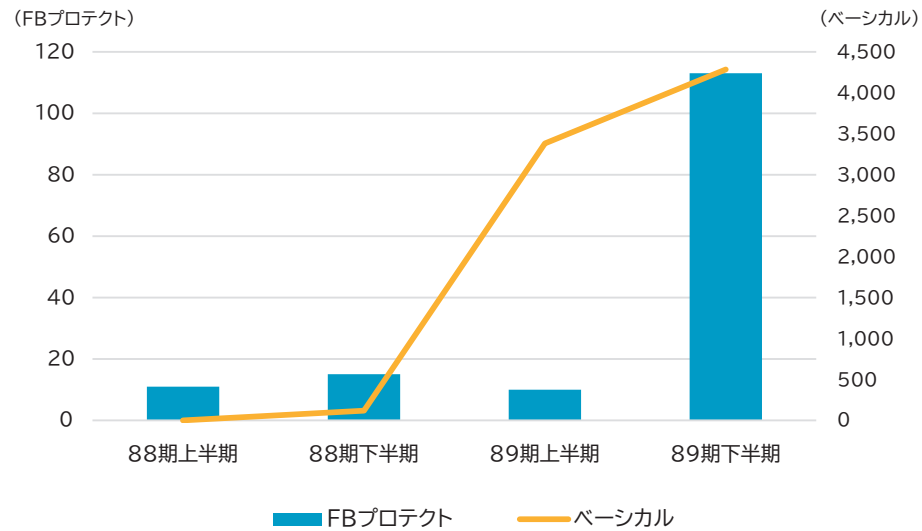
1908 1950	1950 2000	2000 2015	2015 2025
<p>1908 竹谷政一(初代社長)が大阪市東区道修町において主に顔料・漆用レーキの販売を目的として個人創業</p> <p>1932 漆を主体とする漆工製品の広範囲に亘る市場性に着眼し合資会社竹屋化学研究所設立 漆器顔料の自社製造を開始</p> <p>1936 東大阪市長堂1-6に移転し就業</p> <p>1938 株式会社竹屋化学研究所として株式組織を設立</p> <p>1948 竹谷喜勇作が社長(2代目)に就任</p>  <p>竹屋化学の朱肉を使用した旧百圓札</p>  <p>竹谷 政一</p>  <p>竹谷 喜勇作</p>	<p>1960 繊維壁の製造・販売に着手</p> <p>1970 自社ブランド製品で不燃性内装材マイスタットMを発売</p> <p>1971 自社ブランド繊維壁材(春鳳、平安聚楽)を発売</p> <p>1971 壁業界において画期的な壁材として「ベッカータイル」を開発</p> <p>1981 竹谷立男が社長(3代目)に就任 本社を東大阪市長河内東1-25-12に移転</p> <p>1985 セメント系・タイル接着用のポリマーセメントの開発に着手</p> <p>1995 新社屋ビルの竣工</p> <p>1999 内外壁タイル用弾性接着剤「バインドリーム」発売開始</p>  <p>竹谷 立男</p>  <p>2代目の頃より使用している金庫</p>	<p>2000 住宅用多用途ポリマーセメントの研究開発に着手</p> <p>2003 住宅基礎保護システム「ハウスシューズ」販売開始</p> <p>2004 ISO9001認証取得</p> <p>2008 創業100周年・設立70年</p> <p>2010 竹谷裕人が社長(4代目)に就任</p> <p>2011 「CTバリアー」(防蟻ポリマーセメント)試験生産開始 [(社)日本木材保存協会認定]</p> <p>2012 住宅基礎保護材料(1材型カラーモルタル)「ラピットシューズ」を販売開始</p> <p>2014 住宅基礎専用モルタルシート試験生産開始</p>  <p>創業100周年</p>	<p>2016 ハウスシューズ多彩色発売開始</p> <p>2018 本社を大阪府東大阪市長堂へ工場を滋賀県甲賀市水口町へ移転</p> <p>2020 (株)日本格付研究所にて「JCR中堅・中小企業格付:aa」(2020年2月期決算)取得 住宅内基礎保護材料「FBプロテクト」発売開始</p> <p>2021 中小企業庁 近畿経済産業局より事業継続力強化計画に認定</p> <p>2022 外務省ホームページSDGs取組事例にて当社ホームページが掲載、ジャパノロゴマーク取得</p> <p>2024 EcoVadis社のサステナビリティ評価にてブロンズメダルを取得</p> <p>2025 住宅基礎下地材料「ベーシカル」発売開始</p>  <p>長堂本社</p>

竹屋化学研究所
サステナビリティレポート2025

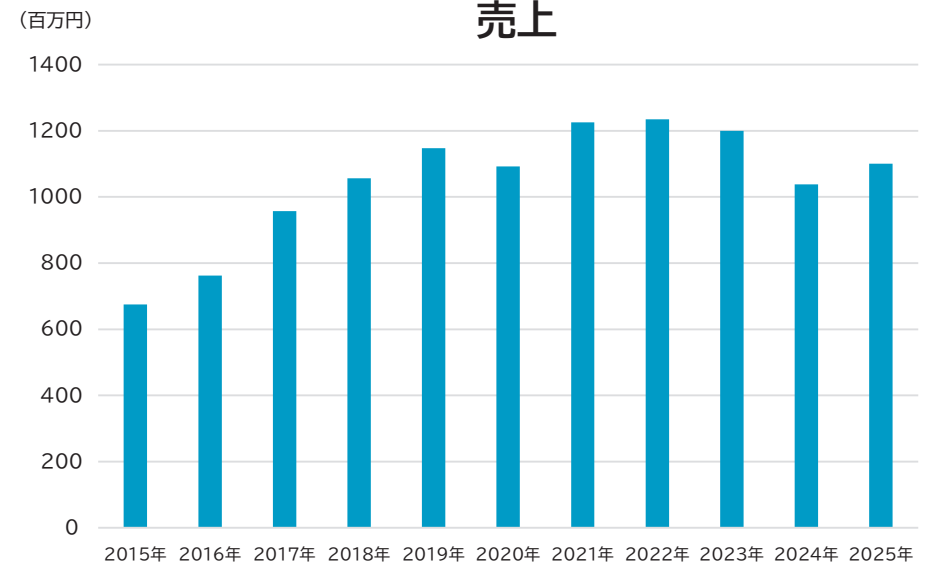
私たちの思い	代表者 メッセージ	竹屋化学に ついて	価値創造 ストーリー	Laboratory	環境の取り組み	社会の取り組み	ガバナンス構築	進捗情報	今後の展望
--------	--------------	--------------	---------------	------------	---------	---------	---------	------	-------

竹屋化学について 役員紹介 沿革 **ハイライト** 第三者認証

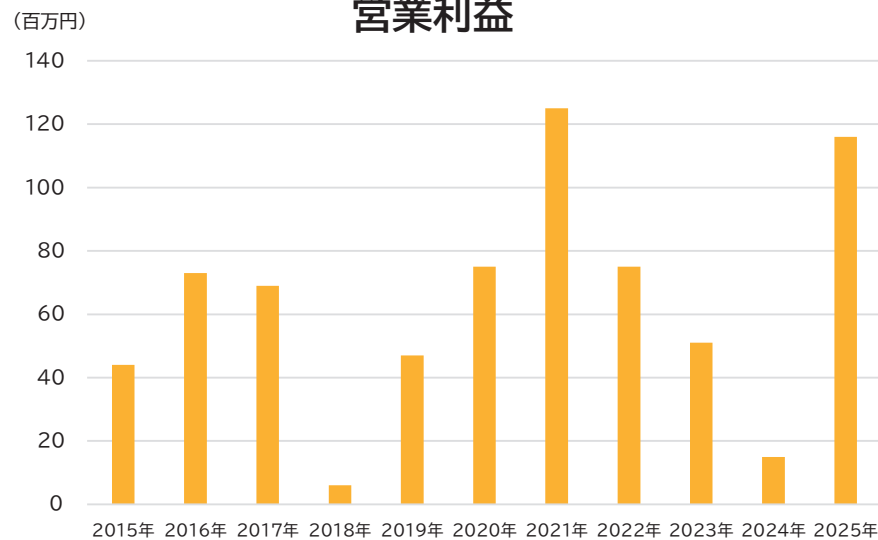
新製品の売上状況



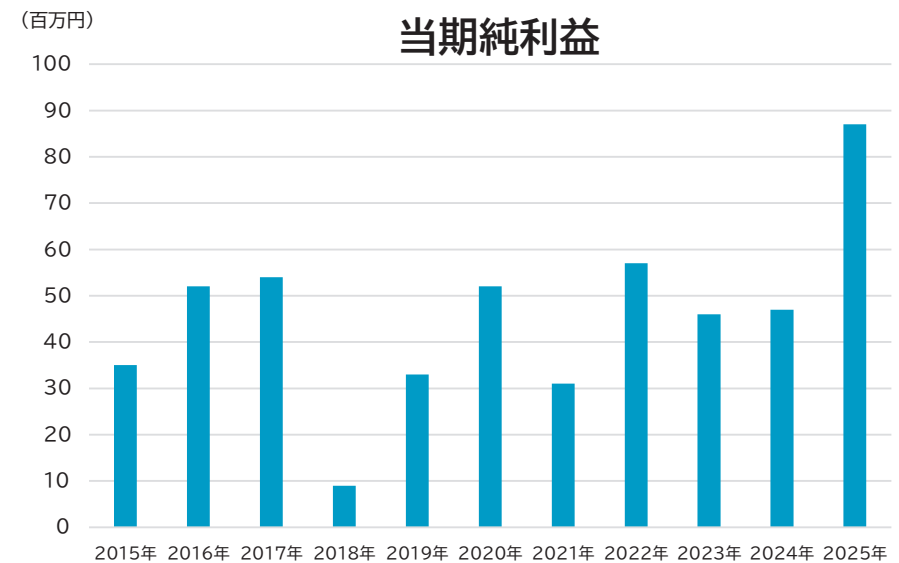
売上



営業利益



当期純利益



竹屋化学
について

竹屋化学研究所
サステナビリティレポート2025

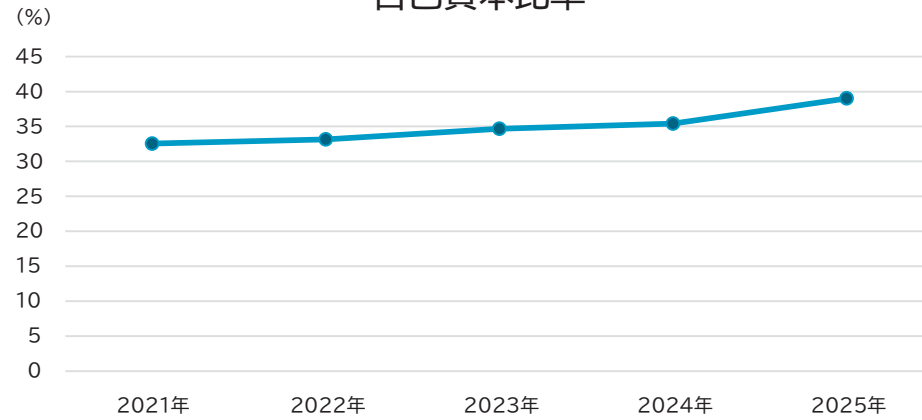
私たちの思い	代表者 メッセージ	竹屋化学に ついて	価値創造 ストーリー	Laboratory	環境の取り組み	社会の取り組み	ガバナンス構築	進捗情報	今後の展望
--------	--------------	--------------	---------------	------------	---------	---------	---------	------	-------

竹屋化学について 役員紹介 沿革 **ハイライト** 第三者認証

竹屋化学
について

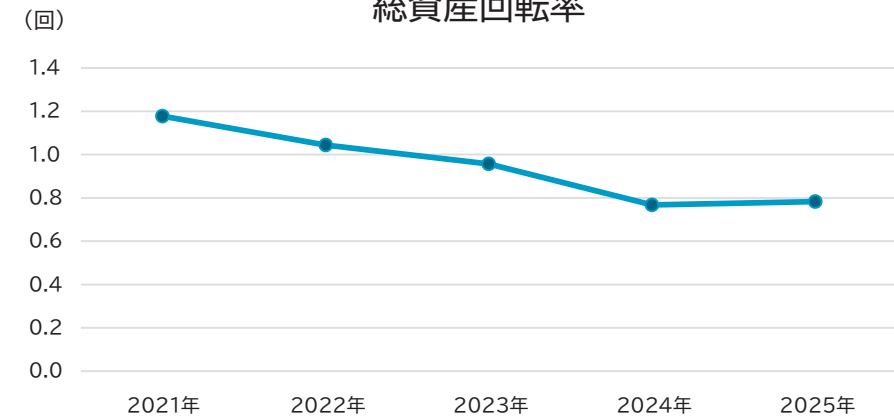
安全性

自己資本比率



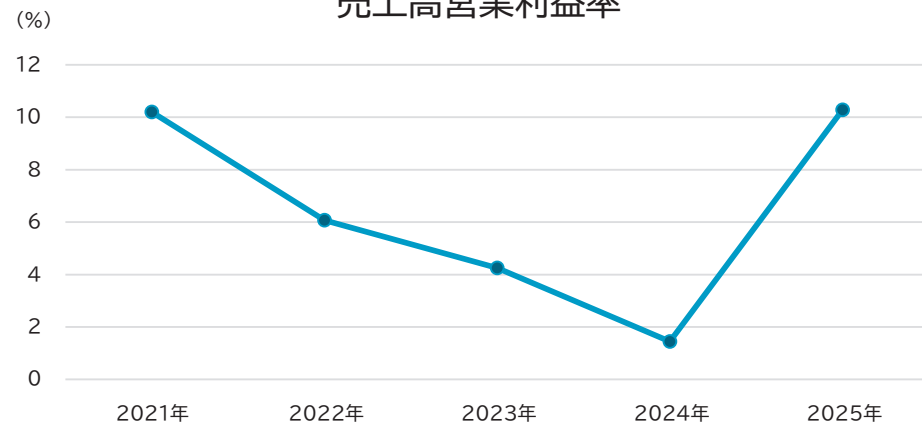
効率性

総資産回転率



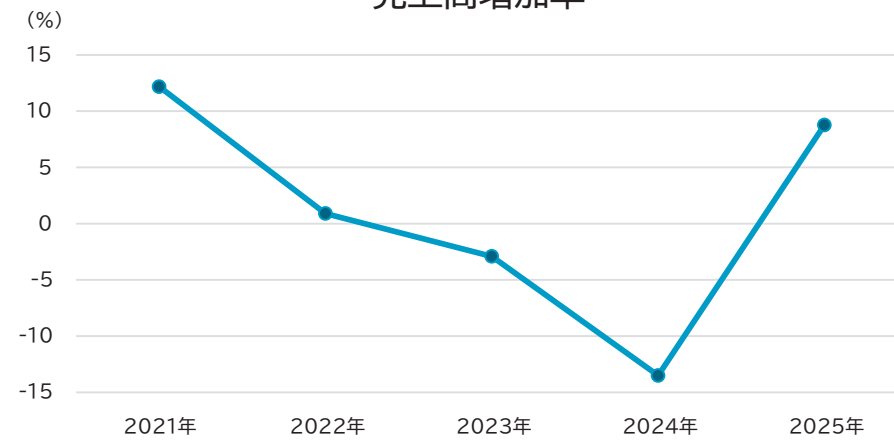
収益性

売上高営業利益率



成長性

売上高増加率

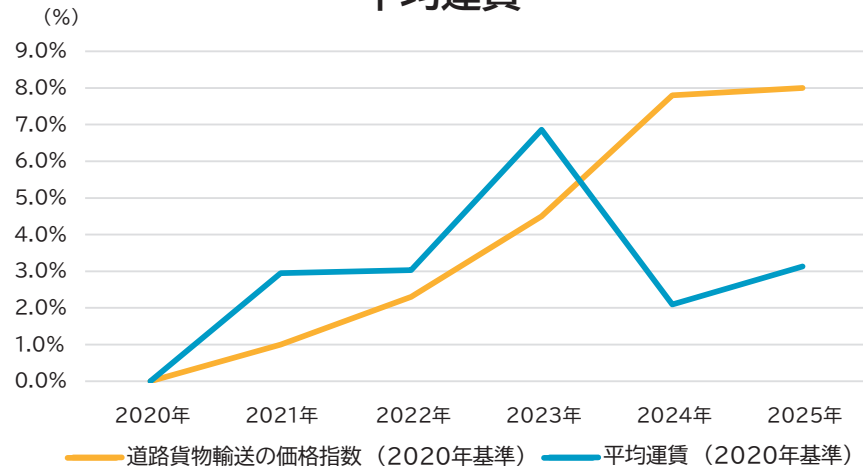


竹屋化学研究所
サステナビリティレポート2025

私たちの思い	代表者メッセージ	竹屋化学について	価値創造ストーリー	Laboratory	環境の取り組み	社会の取り組み	ガバナンス構築	進捗情報	今後の展望
--------	----------	----------	-----------	------------	---------	---------	---------	------	-------

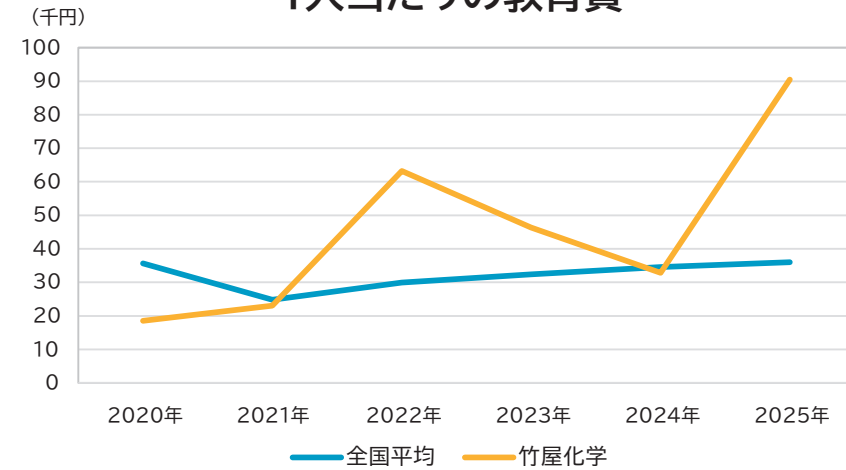
竹屋化学について 役員紹介 沿革 **ハイライト** 第三者認証

平均運賃



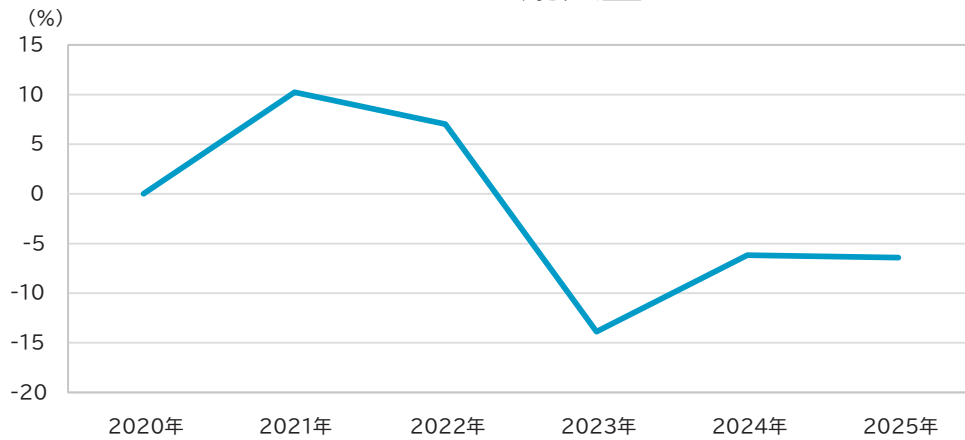
まとめて配送や納品方法の変更など自社努力と取引先のご協力もあり運賃の抑制につながっています。

1人当たりの教育費



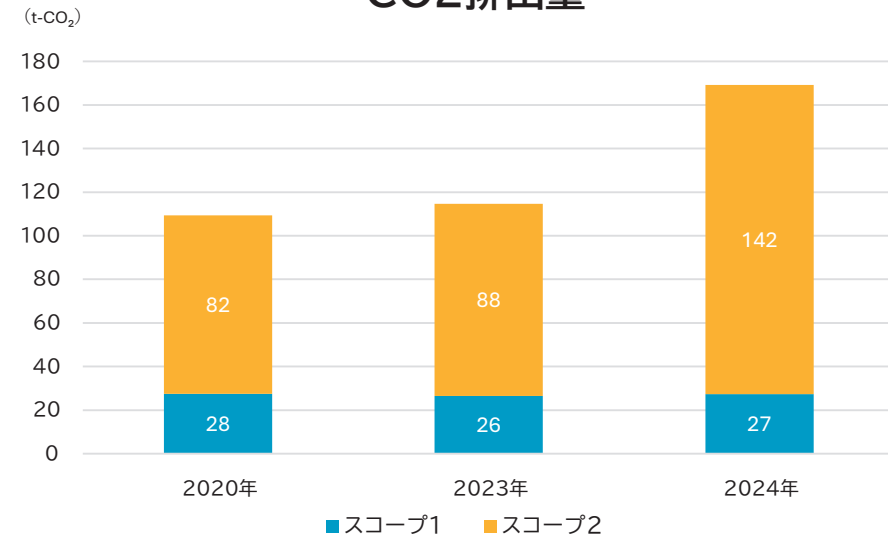
竹屋化学について

セメント購入量



低セメント製品の開発に加え、お取引先各社様の環境意識の高まりにより、セメント使用量の低減が実現しています。

CO2排出量



竹屋化学研究所
サステナビリティレポート2025

私たちの思い	代表者メッセージ	竹屋化学について	価値創造ストーリー	Laboratory	環境の取り組み	社会の取り組み	ガバナンス構築	進捗情報	今後の展望
--------	----------	----------	-----------	------------	---------	---------	---------	------	-------

竹屋化学について 役員紹介 沿革 ハイライト 第三者認証

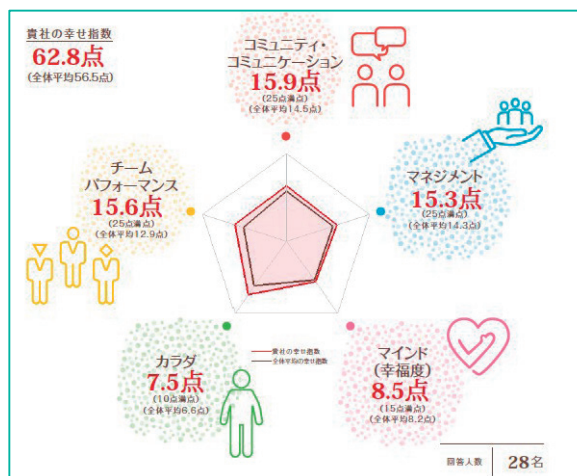
ウェルビーイングとは

身体的、精神的、社会的に良好で満たされた状態を指す言葉です。単なる健康や一時的な幸福感だけでなく、持続的な「よい状態」を意味します。商工組合中央金庫のサービスを利用して「幸せ」に関する約100項目のアンケートを行い、従業員や会社全体の幸せを可視化しました。アンケート結果は独自の分析ツールを活用し、組織に関する「コミュニティ・コミュニケーション」「チームパフォーマンス」「マネジメント」の3要素と、個人に関する「カラダ」「マインド(幸福度)」の2要素の計5つで点数化し、会社の幸せを示したレーダーチャートです。

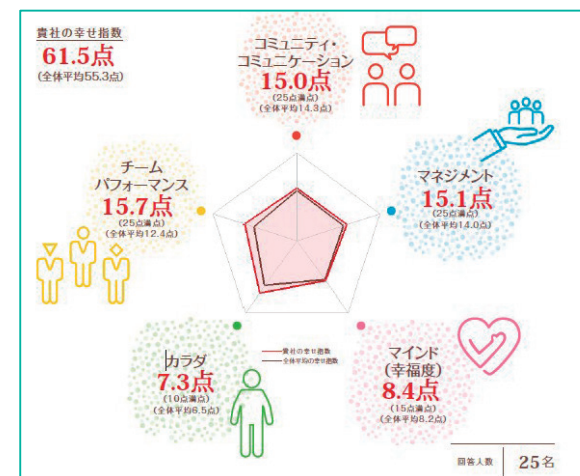
従業員の満足度や仕事への意欲が見える化し、組織の改善に役立て、従業員のエンゲージメント向上を目指します。

竹屋化学
について

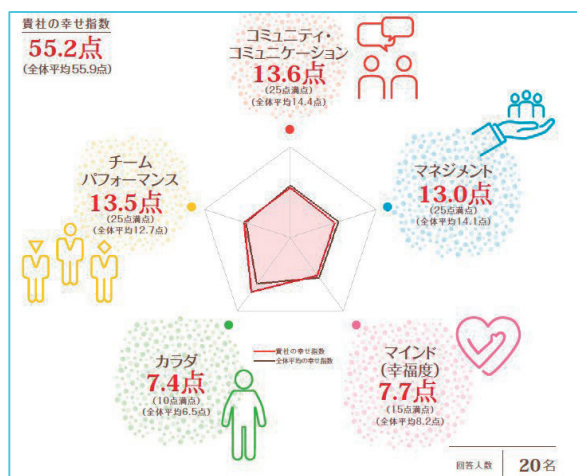
2022年



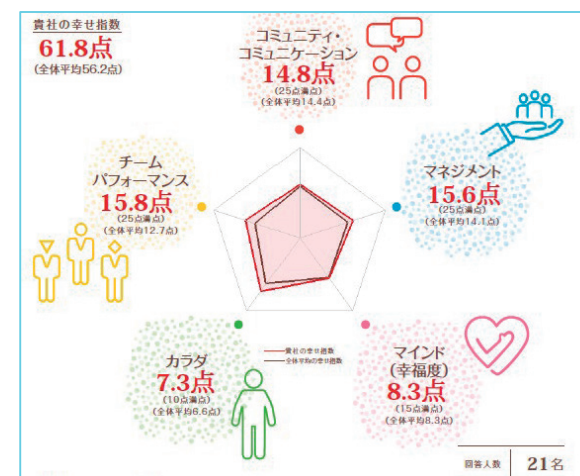
2023年



2024年



2025年



会社の未来について話し合った座談会

竹屋化学研究所
サステナビリティレポート2025

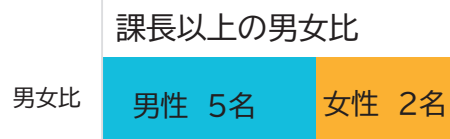
私たちの思い	代表者メッセージ	竹屋化学について	価値創造ストーリー	Laboratory	環境の取り組み	社会の取り組み	ガバナンス構築	進捗情報	今後の展望
--------	----------	----------	-----------	------------	---------	---------	---------	------	-------

竹屋化学について 役員紹介 沿革 **ハイライト** 第三者認証

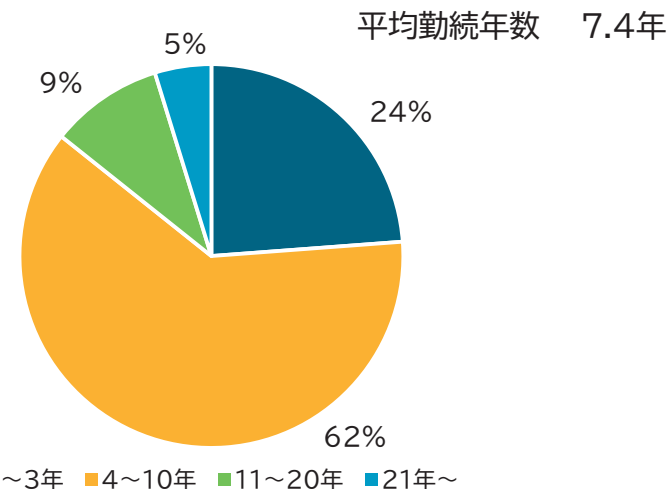
創業117年
東京商工リサーチの調査によると全企業のうち100年を超える企業は2.75%しかいません。
今後も「開拓者精神」のもと社会に喜ばれる商品を提供していきます。

取扱い商品数 90製品以上 / 取引先数 450社以上

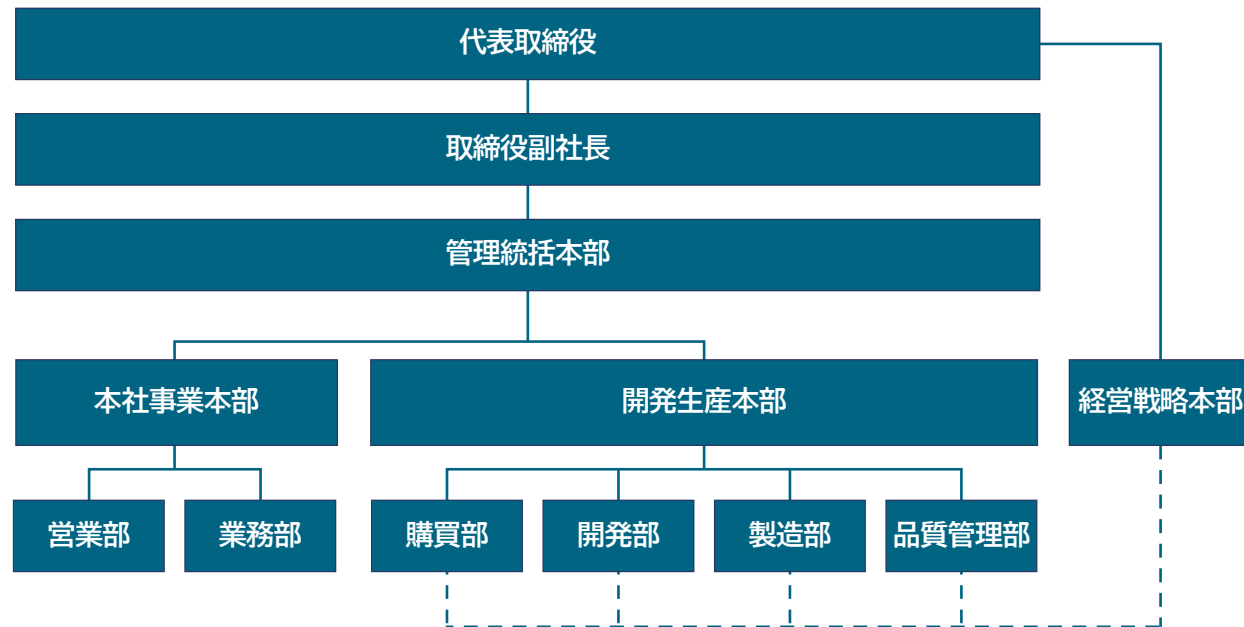
社員数 21名 平均年齢 35.9歳



育児休暇取得率
2021年 対象者1名 100%
2022年 対象者1名 100%
2025年 対象者1名 100%



組織図



竹屋化学
について

竹屋化学研究所
サステナビリティレポート2025

私たちの思い	代表者 メッセージ	竹屋化学に ついて	価値創造 ストーリー	Laboratory	環境の取り組み	社会の取り組み	ガバナンス構築	進捗情報	今後の展望
--------	--------------	--------------	---------------	------------	---------	---------	---------	------	-------

竹屋化学について 役員紹介 沿革 ハイライト 第三者認証

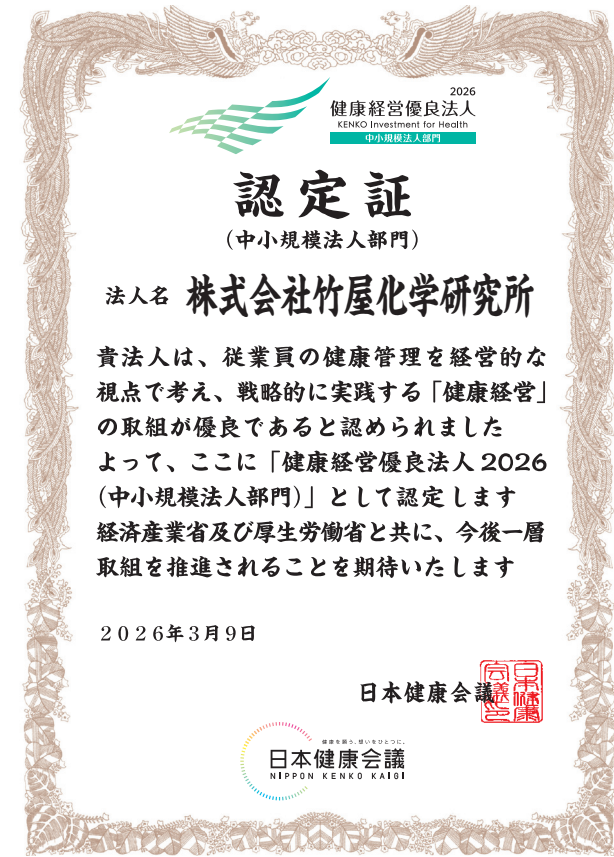
竹屋化学
について



JCR中堅・中小企業格付
5年連続『aa』取得



intertek ISO9001



健康経営優良法人2026

竹屋化学研究所
サステナビリティレポート2025

私たちの思い	代表者 メッセージ	竹屋化学に ついて	価値創造 ストーリー	Laboratory	環境の取り組み	社会の取り組み	ガバナンス構築	進捗情報	今後の展望
--------	--------------	--------------	---------------	------------	---------	---------	---------	------	-------

竹屋化学について 役員紹介 沿革 ハイライト 第三者認証



SDGsの取り組みはが評価され、外務省のSDGsページに取り組み一例として紹介されています。
日の丸と桜をモチーフとしたSDGsジャパンロゴマークは、審査を通過した企業・団体のみが使用可能です。



竹屋化学
について



「ホワイト物流」
推進運動



「絆と創造でより良い未来をカタチにする」

価値創造
ストーリー



社会課題の認識 01

建物・インフラの老朽化や職人不足、CO2排出など、私たちが向き合うべき課題を特定します。

持続可能性の研究所 (Labo) 02

TCL全体をひとつの「Labo」と捉え、全社で一丸となってチャレンジングな開発目標に挑みます。

開拓者精神と絆の共創 03

社内の開拓者精神と、パートナーとの強い「絆」を掛け合わせ、新たな技術やサービスを生み出します。

製品化・顧客への提供 04

Laboでの成果物を高品質なアウトプット(製品・サービス)として、責任を持って社会へ提供し続けます。

社会的インパクトの創出 05

生み出した価値がどのように社会の役に立っているかを検証し、持続可能な未来へ貢献します。

竹屋化学研究所
サステナビリティレポート2025

私たちの思い	代表者 メッセージ	竹屋化学に ついて	価値創造 ストーリー	Laboratory	環境の取り組み	社会の取り組み	ガバナンス構築	進捗情報	今後の展望
--------	--------------	--------------	---------------	------------	---------	---------	---------	------	-------

研究設備紹介 製造設備紹介 開拓者精神 FBプロテクト

当社は、社会課題の解決につながる製品・技術開発を進めるにあたり、独自の技術基盤と分析・評価設備を活用し、価値創造サイクルを構築しています。本ページでは、開発テーマがどのように生まれ、実用化へ向けて進むのか、そのプロセスとそれを支える設備をご紹介します。



社会課題×自社技術ノウハウをもとに新たな可能性を価値に落とし込みます。

製品の要求性能を決めるため情報集め、必要な材料分析をします。

要求性能を満たす製品設計を検討し、性能試験を行います。

長期試験を要する耐久性確認を性能試験と平行して実施します。

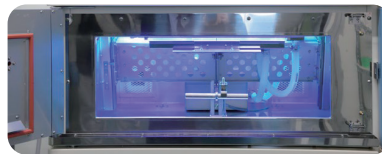
量産に向け、生産設備でスケールアップ検討へ移ります。

設備紹介



促進耐候性試験機

屋外環境の約2,000倍に相当する紫外線を照射した試験を行っています。短時間で経年劣化を再現し、耐候性や長期性能の評価に活用しています。



↑装置内の様子(照射中)



恒温恒湿室

←温度20度/湿度60%設定

温度・湿度を高精度に制御することが可能です。促進耐候性試験機の設置を目的として整備し、現在は作製した試験体の標準養生環境として使用しています。

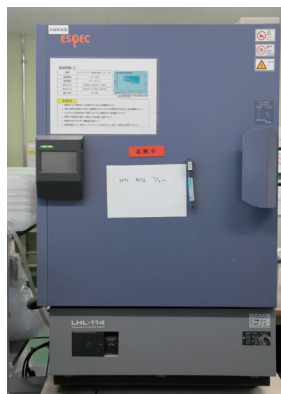
研究設備紹介 製造設備紹介 開拓者精神 FBプロテクト

環境再現設備



温風乾燥機

複数の恒温恒湿器・低温恒温器・乾燥機を組み合わせることで、多様な試験環境を安定的に再現できる点が特長です。



恒温恒湿器



低温恒温器



電気炉

灰分測定用の電気炉を備え、材料中の無機成分量を定量的に評価しています。規定条件下での加熱処理により、配合設計や品質管理に必要な基礎データの取得が可能です。



中性化促進機

大気中の約200倍に相当する高濃度二酸化炭素環境下で、温度・湿度を一定に制御できる中性化促進機です。短期間でコンクリートの中性化進行を再現・評価することができ、耐久性検討に有効なデータを取得できます。

竹屋化学研究所
サステナビリティレポート2025

私たちの思い	代表者 メッセージ	竹屋化学に ついて	価値創造 ストーリー	Laboratory	環境の取り組み	社会の取り組み	ガバナンス構築	進捗情報	今後の展望
--------	--------------	--------------	---------------	------------	---------	---------	---------	------	-------

研究設備紹介 製造設備紹介 開拓者精神 FBプロテクト

各種試験設備（一部）



ふるい振とう機

製品や原材料を粒度ごとに正確にふるい分けします。粒度分布は材料性能に大きく影響するため、配合検討や品質管理において重要な評価項目です。



万能引張試験機

塗膜を一定速度で引張り、破断に至るまでの挙動を評価します。伸び特性や強度を定量的に把握することで、材料性能の比較・検証に活用しています。



建研式引張試験機

下地素材と塗材との付着力を評価しています。付着性能は製品の信頼性を左右する重要な要素であり、性能確認の要となる試験です。



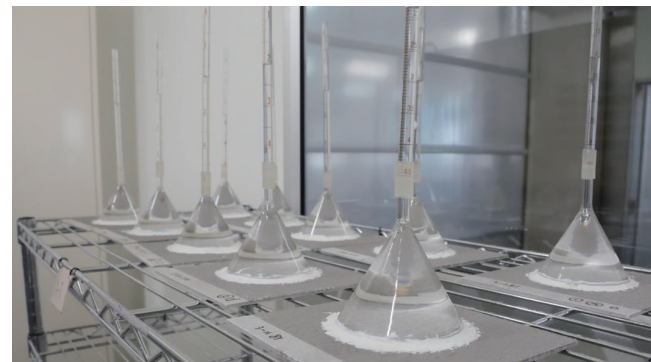
廃水処理装置

研究過程で発生する強アルカリ性の廃水を中和処理し、不純物を除去しています。排水基準を満たすことで、環境への配慮と法令遵守を徹底しています。



FT-IR

FT-IR(フーリエ変換赤外分光分析装置)を用い、材料中の官能基や化学構造を解析しています。製品状態の変化や想定外の挙動が生じた際の要因確認など、顧客対応における技術的検証にも活用しています。



透水試験器具

JIS A 6916に準拠した透水試験を実施し、材料の透水性を定量的に評価しています。水の浸透挙動を把握することで、性能確認や品質の妥当性検証に活用しています。

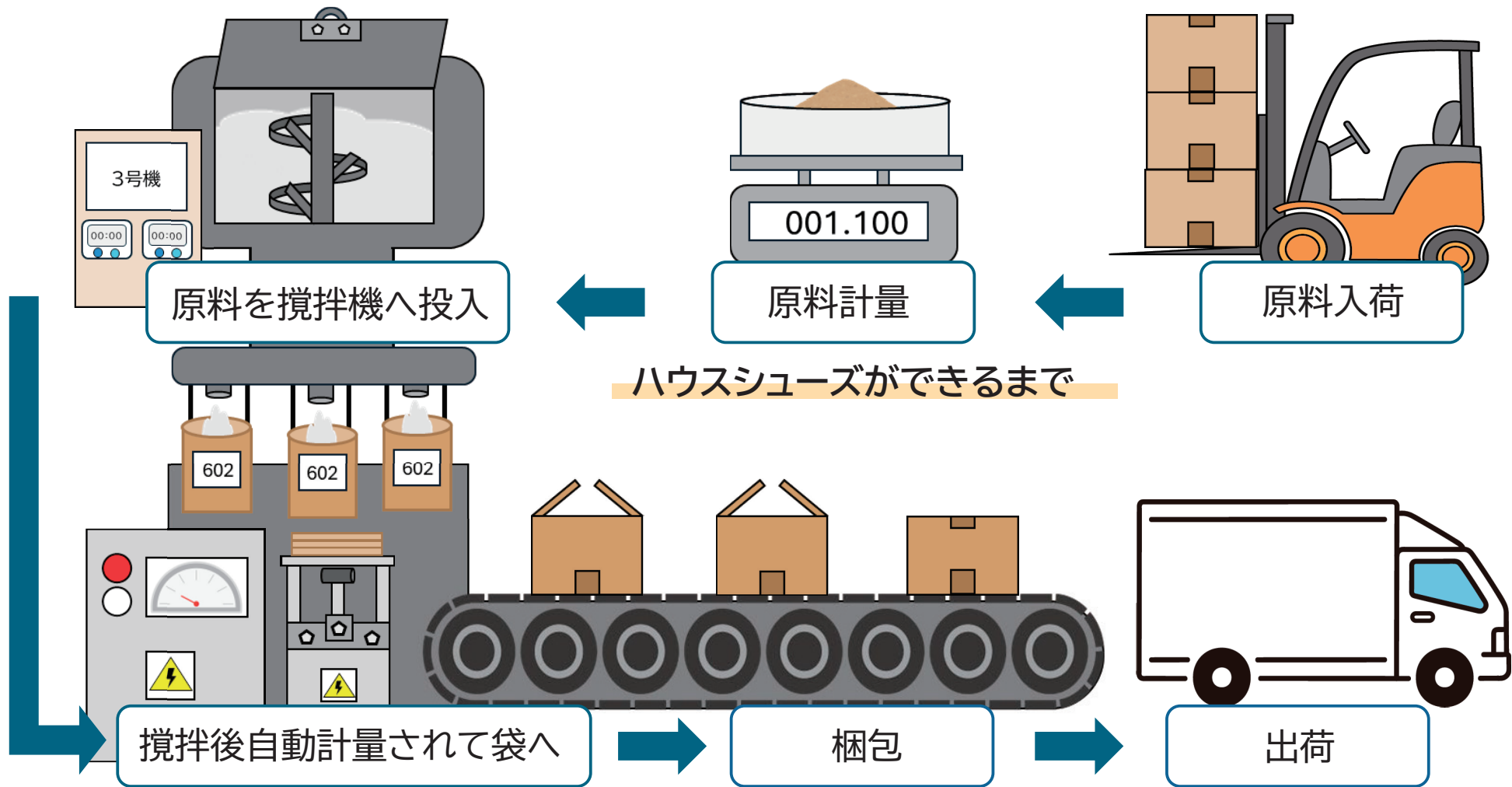
Laboratory

竹屋化学研究所
サステナビリティレポート2025

私たちの思い	代表者 メッセージ	竹屋化学に ついて	価値創造 ストーリー	Laboratory	環境の取り組み	社会の取り組み	ガバナンス構築	進捗情報	今後の展望
--------	--------------	--------------	---------------	------------	---------	---------	---------	------	-------

研究設備紹介 製造設備紹介 開拓者精神 FBプロテクト

私たちの研究・製造設備は、単なる試験機や製品を作る機械ではありません。長年の歴史の中で培ってきた「技術力」と、未来への責任を果たす「探求心」を融合させ、環境負荷の最小化と安全・安心な住環境づくりを実現するための心臓部です。ここで生まれるイノベーションが、次の「環境の取り組み」の基盤となります。



竹屋化学研究所 サステナビリティレポート2025

私たちの思い	代表者 メッセージ	竹屋化学に ついて	価値創造 ストーリー	Laboratory	環境の取り組み	社会の取り組み	ガバナンス構築	進捗情報	今後の展望
--------	--------------	--------------	---------------	------------	---------	---------	---------	------	-------

研究設備紹介 製造設備紹介 **開拓者精神** FBプロテクト

ハウスシューズ | 壁から基礎へ。発想の転換が生んだ主力製品

2000年代初頭、日本の住宅市場で和室が減少し、竹屋が主力としてきた左官用壁材の需要が徐々に縮小していました。当時営業本部長だった竹谷社長は、同じ「塗る」技術に着目し、「ポリマーセメント」の持つ防水性、中性化抑制効果という特性を住宅の「基礎」に応用する戦略へと舵を切りました。住宅向けにこの部分を意識した保護材は当時ほとんど存在していませんでした。

この発想から、住宅の「靴」に見立てた基礎用保護材「ハウスシューズ」の開発が始まり、2003年に初代の「HS101」が発売されました。その後、市場の多様なニーズに応えるべく、機能強化版の「HS202」、より簡便な施工を可能にするローラー塗装タイプの「HS102」、コストダウンを実現した薄塗りタイプの「HS203」といった改良モデルが次々と登場しました。

さらに、木造住宅の天敵である白アリをターゲットにした対策製品「CTバリアー」や、施工時間を大幅に短縮できる1コートタイプの「ラビットシューズ」を開発。意匠性では、「HS多彩色」シリーズ(4色)を展開し、機能性とデザイン性を高次元で両立させながら、ポリマーセメントの新たな市場を切り拓き続けています。



未来を創る商品開発

住宅の基礎は、一度建ててしまうと簡単には補修できません。だからこそ、建てる時から基礎の耐久性を高める工法を選ぶことが、子や孫の世代へ住まいを受け継ぐ第一歩になります。住宅の解体には多くのエネルギーが必要で、廃材の運搬や処分も環境負荷につながります。

例えば木造住宅一棟(約40坪)のうち、基礎コンクリートだけでおよそ30トン。その寿命を倍に延ばせば、解体時の環境負荷も半減できます。

ポリマーセメントによる基礎保護は、こうした課題へのひとつの答えです。新築時にわずかな手間で施工することで、コンクリートの中性を抑え、長期にわたって強度を保ち続けることができます。災害後の再建や次世代への継承を考えたとき、“基礎を残す”という選択肢は、環境にも家族にもやさしい未来のかたちです。

竹屋化学研究所 サステナビリティレポート2025

私たちの思い

代表者
メッセージ

竹屋化学に
ついて

価値創造
ストーリー

Laboratory

環境の取り組み

社会の取り組み

ガバナンス構築

進捗情報

今後の展望

研究設備紹介 製造設備紹介 開拓者精神 **FBプロテクト**

FBプロテクト | 見えない基礎を守る、持続可能な住宅づくりの新しいかたち

住宅の耐久性を支えるのは、見える外側の仕上げだけではありません。コンクリート基礎の“内側”を守ることも、住まいの長寿命化には欠かせない要素です。「FBプロテクト」は、竹屋化学研究所が開発した中性化抑制用ポリマーセメントモルタル。基礎表面に塗布することで、コンクリート内部への劣化因子の進行を抑え、建物を長く健全に保ちます。技術的な課題解決にとどまらず、限りある資源を生かし、廃棄を減らすという“持続可能な暮らしの循環”を生み出す取り組みでもあります。



Laboratory

誕生秘話と舞台裏 | 開発×営業 インタビュー

まず、FBプロテクトの開発の出発点について教えてください。

開発部 榎課長：私たちは、ハウスシューズが誕生した時から、内側も外側も大事にしたいと思っていました。当時の反応は「基礎の内側を保護する」という考え方が受け入れられないと、見えない“内側の価値”をどう伝えるか、そこに悩みましたね。でも、コンクリートが中性化すると建物の寿命に関わるということは確実で、そこを見逃すのは“持続可能な住宅”とは言えないと信じて進みました。

営業部 石野取締役：当時は2社ぐらいしか採用してもらえず、理解を得るのに苦労しました。それこそ最初は「そこまでやる必要あるの？」という。でも、説得を続け、今では「内側を守る」という発想が浸透していると感じています。この経験は今の製品価値につながっています。

開発の過程で苦労したことや、新しい挑戦はありましたか？

榎課長：塗るタイミングひとつでも試行錯誤でした。コンクリートの脱型直後は水分を含んでおり、そのままの状態では塗布可能なのか、時間をおいてから塗るのかなど、すべて手探りでした。同じ基礎であってもハウスシューズとは異なる状況というところが多く、何度も試行錯誤しました。特に、新たな試験方法を作るという点では苦労が多かったですね。

石野取締役：営業側も、いままでにない部分に使用する製品ということで、提案方法も手探りでした。お客様の要望をすぐ開発に伝えて、それに対応してもらえる体制ができたのは大きかったです。要望が製品に反映される速さが信頼につながっていくところを実感できましたね。

竹屋化学研究所 サステナビリティレポート2025

私たちの思い	代表者 メッセージ	竹屋化学に ついて	価値創造 ストーリー	Laboratory	環境の取り組み	社会の取り組み	ガバナンス構築	進捗情報	今後の展望
--------	--------------	--------------	---------------	------------	---------	---------	---------	------	-------

研究設備紹介 製造設備紹介 開拓者精神 **FBプロテクト**

司会：市場やお客様の反応はどう変わりましたか？

榎課長：初めは、必要性を感じていない会社も多かったです。でも、あきらめずに施工現場に同行したり、説明を重ねる中で、「なるほど、内側も重要なんだ」と理解してもらえるお客様が徐々に増えてきています。

石野取締役：はい。最初は苦戦しましたが、開発部と協力し、最新の市場動向を伝えているうちに、「内側も守る必要がある」という認識が広まってきました。



FBプロテクトを通して、会社として得られたものは何でしょう？

榎課長：開発としては、営業の情報を取り入れつつ、自分たちで考えたものを実現する力がつきました。これがあったから、新しい業界や用途にも挑戦できる土台ができたと思います。

石野取締役：会社全体としては、営業と開発の循環がうまく回るようになりました。お客様のニーズを拾い、それに対応した製品を提供できる体制ができたことで、より幅広い住宅会社にも提案できるようになりました。



今後の展望や挑戦はどう考えていますか？

榎課長：住宅以外の分野にも挑戦したいですね。公共工事や他業界への応用、新しい販売ルートも視野に入れています。デジタル活用も含めて、開発部から新しい価値を生み出していきたいです。

石野取締役：営業としては、施工動画やSNSを活用して情報発信を進めています。これにより、より多くのお客様に製品の価値を理解してもらえと思っています。

私たちの思い	代表者 メッセージ	竹屋化学に ついて	価値創造 ストーリー	Laboratory	環境の取り組み	社会の取り組み	ガバナンス構築	進捗情報	今後の展望
--------	--------------	--------------	---------------	------------	---------	---------	---------	------	-------

CO2削減 資源の有効利用

セメントとCO₂の関係について

セメントは建設資材として不可欠な存在である一方、製造過程で大量のCO₂を排出する素材でもあります。住宅基礎に使用されるコンクリートは、主成分であるセメントに砂・砂利・水を加えて混ぜ合わせて作られます。

実はセメントを1トン製造すると、二酸化炭素が約0.8トン排出されます。住宅1棟あたりに使用される生コンクリートは約17m³、セメントは約5トンにも及びます。

つまり家を一軒建てるためには、単純計算で約3.8トンもの二酸化炭素が排出されることになります。

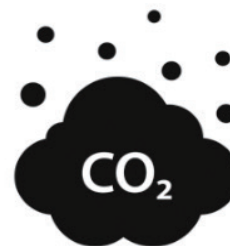
住宅基礎の寿命を伸ばせば、それだけ新たなコンクリートの使用が抑制でき、二酸化炭素排出量の削減に大きく貢献できます。



住宅建設時に使用するコンクリート
約17m³



原料となるセメント
約5トン
※コンクリート1m³あたり300kg



セメント製造時のCO₂排出量
約3.8トン
※セメント1トンあたり757kg



年間新築着工によるCO₂排出量
約190万トン
※年間戸数約40万としたとき



基礎の寿命を30年から100年に延ばすことで、将来的にCO₂の排出量を1/3に抑えることが可能！

竹屋化学研究所 サステナビリティレポート2025

私たちの思い	代表者 メッセージ	竹屋化学に ついて	価値創造 ストーリー	Laboratory	環境の取り組み	社会の取り組み	ガバナンス構築	進捗情報	今後の展望
--------	--------------	--------------	---------------	------------	---------	---------	---------	------	-------

CO2削減 資源の有効利用

セメント使用量削減製品『ベーシカル』について

当社では、持続可能な社会の実現に向けて製品開発と工場運営の両面からCO₂削減に取り組んでいます。特に、セメント使用量の削減と再生可能エネルギーへの転換は環境負荷低減において重要な柱となっています。

刷毛引きモルタルは仕上げ材として広く使用されてきたものの、セメント比率が高くCO₂排出量も多くなってしまいます。一方、当社の新しい配合ではセメント使用量を約6.4%削減しながらも、同等の仕上がりや耐久性を確保し、意匠性にも優れています。

また、セメントの使用量そのものを減らす配合の工夫により、環境配慮型製品の開発を進めています。これらの製品は強度や耐久性を維持しながらも、CO₂排出量を大幅に抑えることができ脱炭素化に貢献しています。

製品開発においては、従来の普通セメントに代わりバイオマス灰を使用した製品を開発しています。これにより、CO₂排出量を38.3%削減することが可能となり資源の有効利用にも貢献しています。

これらの材料はセメントと同等以上の強度や耐久性を持ち、施工性にも優れているため、従来の建材と遜色ない性能を発揮します。

再生可能エネルギー100%導入

2025年度には滋賀工場で使用する電力のすべてを風力発電による再生可能エネルギーへと切り替え、再生可能電力100%の導入が完了しました。風力発電は、安定供給と環境負荷の低さを両立する電力源として、今後のエネルギー戦略においても重要な役割を担います。この取り組みは、2030年度の環境目標達成に向けた重要なステップであり、企業としての責任と未来への投資でもあります。

今後も、製品のライフサイクル全体を通じた環境負荷の低減を追求し、持続可能な社会の実現に向けて取り組みを進めてまいります。



環境の
取り組み

竹屋化学研究所
サステナビリティレポート2025

私たちの思い	代表者 メッセージ	竹屋化学に ついて	価値創造 ストーリー	Laboratory	環境の取り組み	社会の取り組み	ガバナンス構築	進捗情報	今後の展望
--------	--------------	--------------	---------------	------------	---------	---------	---------	------	-------

CO2削減 資源の有効利用

資源のエコ化

製品の環境性能を高めるうえで、主材料だけでなく副資材の見直しも環境負荷低減に大きく関わっています。副資材を環境配慮型に切り替えることで、製品全体のCO₂排出量や廃棄物量を大幅に削減することが可能になります。当社では、製品そのものの環境負荷軽減だけでなく、梱包材などの副資材のエコ化を推進し、職場環境の持続可能性向上にも積極的に取り組んでいます。

運搬時に使用するストレッチフィルムは再生品であるビニール袋や、リサイクルバンドは環境配慮型の素材を採用しています。

また、梱包後に使用していたPPバンドの廃止をすることで作業の効率化や資源削減に繋がりを、商品に使用している袋を三層クラフト紙袋から二層クラフト紙袋に変更することで十分な強度を保ちつつ、資材の使用量とコストの両方を抑えることに成功しました。これにより年間で502kg単位の紙資材削減が可能となり、森林資源の保護にも貢献しています。



社員意識の向上

当社では、社員一人ひとりが環境への配慮を意識しながら日々の業務に取り組んでいます。マイカップの利用や、再生紙製の紙コップの導入を推進することにより使い捨てプラスチックの削減や廃棄物の発生を抑えています。

また、ゴミ袋やコピー用紙には再生品を使用し、資源循環型のオフィスづくりを進めています。地域資源の活用にも力を入れており、名刺には一部琵琶湖の葦を原料とした再生紙を採用しています。

これは、湖岸の環境保全と資源活用を両立する取り組みであり、地域との共生を象徴する素材です。地域資源の利用を通じて環境保護に寄与する取り組みも行っています。



竹屋化学研究所
サステナビリティレポート2025

私たちの思い	代表者 メッセージ	竹屋化学に ついて	価値創造 ストーリー	Laboratory	環境の取り組み	社会の取り組み	ガバナンス構築	進捗情報	今後の展望
--------	--------------	--------------	---------------	------------	---------	---------	---------	------	-------

Well-being 従業員の健康 ジェンダーレス スキルアップ

Well-beingで手に入れる心と身体の豊かさ

企業は様々なステークホルダーとつながっていますが、当社はなかでも会社と社員との「絆」が特に重要であると考えています。なぜなら、その絆が良質なサービスや関係者との良好な関係を生み出す基盤となるからです。

そして、社員同士の絆の前提になるのが、一人一人のウェルビーイング(健康や幸せ)です。心身の充実を実現し、未知への挑戦や創造性を存分に発揮して欲しい。そしてそのことが良質なサービスやモノを生み出し、社会に役立つ組織の原動力になる。そんな想いで、ウェルビーイングの取り組みを行っています。

ウェルビーイングにキャリアと私生活の調和は欠かせません。社員のライフステージには、育児、介護、自己研鑽、ボランティア活動など、多様なニーズが存在します。柔軟で利用しやすい休暇制度は、これらのニーズに寄り添い、社員が「仕事か私生活か」の二択を迫られることなく、高いレベルで両立できるように支援しています。特に、年次有給休暇の取得促進に加え、特定の目的(家族のケア、病気の治療など)に応じた特別休暇を充実させることは、社員の長期的なキャリア形成を支え、優秀な人材の定着率向上に直結すると考えています。

その他に取り組みとして健康経営の実施、ジェンダーレスの推進、スキルアップの手助けなど幅広い内容の活動をしています。ストレスチェックや健康習慣アンケート、エンゲージメントスコアで結果を把握し、改善するリサイクルを回しています。

有給休暇の取得促進 (Happy Wednesday)	期首に5回の水曜日を有給休暇に設定
バケーション休暇	年に1回、3日以上の特典手当付きの連続休暇
産前産後休暇	産前6週間(多胎妊娠の場合14週間)、産後8週間
育児休業	最長、子どもが満2歳に達する日まで
子の看護等休暇	小学校3年修了まで、1年間に5回、2人以上は10日まで
介護休暇	対象者が1人の場合、年間に5日、2人以上の場合は10日
短時間勤務	育児による場合は子どもが3歳まで 介護による場合は最長3年間



社会の
取り組み

竹屋化学研究所
サステナビリティレポート2025

私たちの思い	代表者 メッセージ	竹屋化学に ついて	価値創造 ストーリー	Laboratory	環境の取り組み	社会の取り組み	ガバナンス構築	進捗情報	今後の展望
--------	--------------	--------------	---------------	------------	---------	---------	---------	------	-------

Well-being 従業員の健康 ジェンダーレス スキルアップ

健康経営の推進方針

本方針は、従業員の健康を重要な経営資源と位置づけ、従業員と会社が一体となって健康づくりに取り組む「健康経営」を推進することで、以下の目的を達成することを目指します。

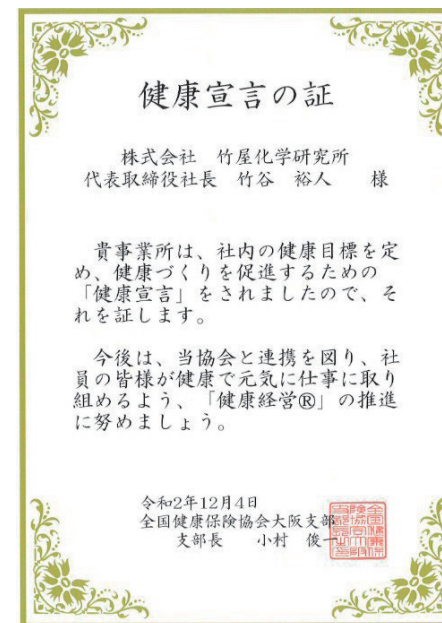
- 従業員の心身の健康保持・増進
- 生産性の向上と組織の活性化
- 企業競争力の強化と企業価値の向上
- 優秀な人材の確保と定着

本方針の進捗状況を定期的に評価し、PDCAサイクル(計画・実行・評価・改善)を回しながら、より効果的な施策へと継続的に改善していきます。具体的な評価指標としては、従業員の健康診断結果、ストレスチェック結果、健康習慣アンケート結果、有給休暇取得率などを活用します。

健康宣言の証

2020年12月に「健康宣言」を行い、従業員が定年まで安心して働き続けることができるよう、健康経営を積極的に推進します。メンタルヘルスケアの強化、生活習慣病予防の啓発を通じて、「こころ」と「からだ」のバランスが取れた働きやすい環境を整備します。

私たちは、この健康宣言を実践することで、従業員満足度と生産性の向上を目指します。



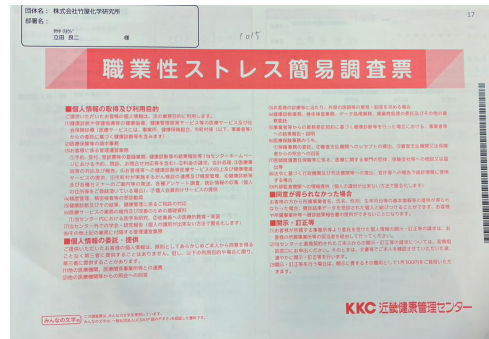
竹屋化学研究所
サステナビリティレポート2025

私たちの思い	代表者 メッセージ	竹屋化学に ついて	価値創造 ストーリー	Laboratory	環境の取り組み	社会の取り組み	ガバナンス構築	進捗情報	今後の展望
--------	--------------	--------------	---------------	------------	---------	---------	---------	------	-------

Well-being 従業員の健康 ジェンダーレス スキルアップ

健康課題の把握

経営者、役員、社員の健康診断の受診
任意検診の就業時間内での受診
定期健康診断時にがん検診等の任意検診を
付加できる医療機関と契約
保険会社の健康習慣アンケートの活用
メールや面談にて再検査の受診勧奨
ストレスチェックの実施
一日2回以上の検温実施
血圧計の設置



ヘルスリテラシーの向上

講師を招いての健康講座やオンライン講座の受講
毎月の健康情報の提供



職場の活性化

社内報、研修旅行、意見交換会
同好会の設置及び金銭支援
オンラインウォーキングイベントへの参加

健康増進・生活習慣病予防対策

ヤクルト、塩飴の提供
昼食代の補助
ラジオ体操
階段推進日の設置
運動習慣改善に向けた講座



ネクストブライツ1000 認定

2022年度から5年連続で経済産業省の「健康経営優良法人2026(中小規模法人部門)」の認定をいただきました。また、2025年にはネクストブライツ1000にも認定いただいています。これは、当社の健康経営の取り組みが、全国の中小企業の中でトップクラスの水準にあると評価された結果です。従業員の健康維持・増進を経営戦略の一つとして捉えることで、高い生産性と持続可能な事業運営体制を確立しています。この認定を機に、社員一丸となってさらなる企業価値向上に努め、取引先の皆様に長期的な安心と信頼を提供してまいります。



社会の
取り組み

竹屋化学研究所 サステナビリティレポート2025

私たちの思い

代表者
メッセージ

竹屋化学に
ついて

価値創造
ストーリー

Laboratory

環境の取り組み

社会の取り組み

ガバナンス構築

進捗情報

今後の展望

Well-being 従業員の健康 ジェンダーレス スキルアップ

育児休暇の推進

当社は、男性社員による育児休業の積極的な取得を強く推奨しています。育児は、夫婦が協力し合うかけがえのない時間であるとともに、社員にとっては新たな成長の機会でもあります。育児を通じて培われる多角的な視点、高度な時間管理能力、そして共感力は、必ずやビジネススキルとしても活かされ、社員一人ひとりの人間的な成長に繋がると確信しています。

社員が安心して家庭と仕事の両立を実現できるよう、当社は万全のサポート体制を構築しています。育児休業取得時には、上司や同僚が円滑に業務を代行できるよう、業務内容の共有とマニュアル化を徹底。実際に取得した社員からは、「安心して子育てに専念できた」という肯定的な声が寄せられています。当社は、社員が育児を楽しみ、自分らしいキャリアと働き方を追求できる環境を提供し続けます。



女性活躍

多様な人材が活躍できる組織を目指しており、性別に関係なく誰もがキャリアアップできる環境です。実際に、管理職に占める女性の割合は40%に達しており、多くの女性社員がその能力を発揮しています。育児や介護と両立しながらリーダーとして活躍する社員も多く、柔軟な働き方をサポートする制度も充実しています。

私たちは、個々の挑戦を尊重し、すべての社員が理想のキャリアを描けるよう応援します。



柔軟な働き方の推進

当社は、従業員一人ひとりが能力を最大限に発揮できるよう、柔軟な働き方を積極的に推進しています。具体的には、リモート会議、時短勤務、直行直帰など、ライフスタイルに合わせた多様な勤務形態を導入。これにより働きやすい環境が整備され、勤続年数表彰を受ける社員が多数いることが、その定着率の高さを示しています。

また、育児・介護休業制度の利用促進にも力を入れており、社内でのチラシ掲示や定期的な面談を通じて、制度の取得を積極的にサポートしています。こうした取り組みを通じて、従業員が生き生きと働き、その個性を最大限に活かせる企業文化を醸成しています。この柔軟な働き方が、結果としてお客様へのより質の高いサービス提供や、社会への貢献へと繋がっています。



竹屋化学研究所 サステナビリティレポート2025

私たちの思い	代表者 メッセージ	竹屋化学に ついて	価値創造 ストーリー	Laboratory	環境の取り組み	社会の取り組み	ガバナンス構築	進捗情報	今後の展望
--------	--------------	--------------	---------------	------------	---------	---------	---------	------	-------

Well-being 従業員の健康 ジェンダーレス スキルアップ

WEB講座

24時間、どこからでも自分にあったセミナーを受けられる環境にあります。会社側としては従来の集合研修では、会場費、講師の交通費や宿泊費、受講者の移動費など、多くの間接費用が発生していました。Web講座により、これらのコストを大幅にカットできました。地理的な制約や勤務形態による教育格差を解消し、すべての社員に均等な学びの機会を提供できます。一方で社員側は自分自身の理解度や都合に合わせて自主的に学習を進められるため、学習効果が高まります。

社史の配布

自社の歴史を学ぶことで、困難を乗り越えた歴史や社会に貢献してきた実績を知れました。大切にしてきた価値観、DNAを、具体的なエピソードなどを理解することで自社に対する誇りを高め、仕事へのモチベーションを向上に繋がっています。

TeachingとCoachingの二刀流

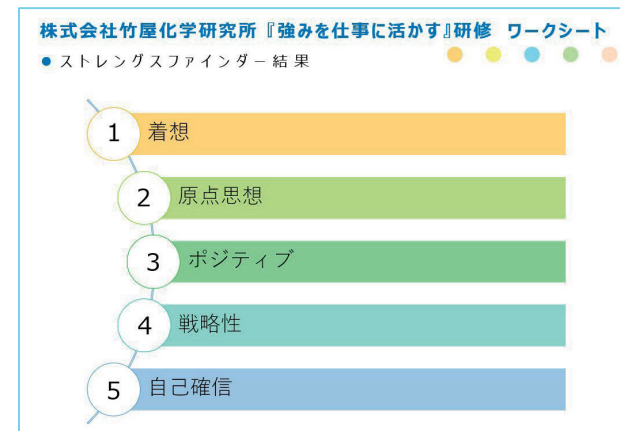
当社の育成では、従来の上司が知識や答えを「与える」形のティーチング(Teaching)に加え、コーチング(Coaching)の手法を取り入れています。コーチングでは、質問や傾聴を通じて、相手自身が考え、内側から成長するのを手助けします。

つまり、単に「教える」だけでなく「引き出す」育成方法で、社員のスキルアップを図っています。これにより、社員一人ひとりが自発的に「自分がどうなりたいか」「どのように進めたいか」を見つけ、自律的に実践していく力を身につけています。

社員の強みを最大限に引き出す育成と支援

ストレングスファインダーにより、個人の資質が「見える化」されることで、その個性や持ち味を活かした人材育成や、組織戦略の立案が可能となります。強みに合わせた適切な支援や育成機会の提供が可能となり、結果として社員の自律的なスキルアップを促します。

これは適材適所の配置を可能にし、社員一人ひとりがその長所を活かして社内で活躍する場面を増やし、組織全体のパフォーマンス向上に大きく貢献します。また、社員にとっても、自身の強みを発見し再認識する貴重な機会となり、業務に対する高いモチベーションとエンゲージメントに繋がります。



社会の
取り組み

竹屋化学研究所
サステナビリティレポート2025

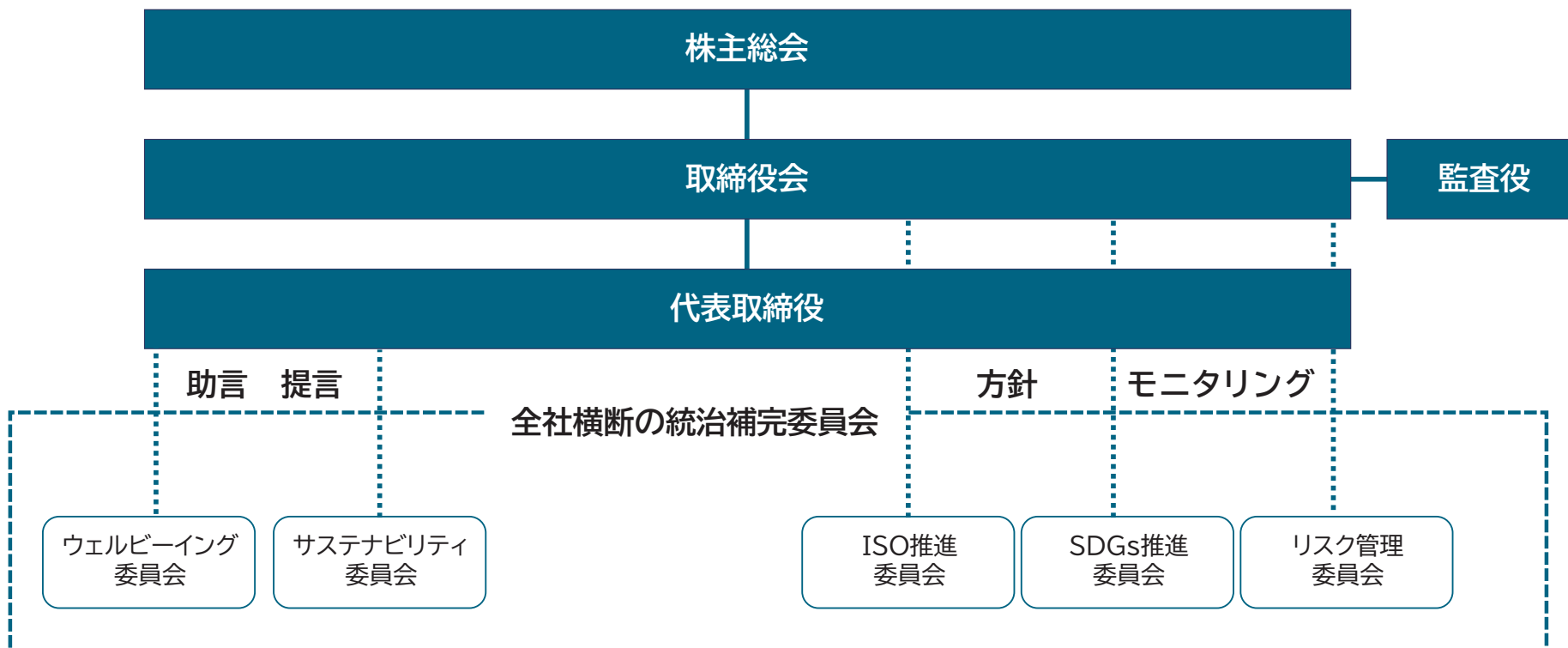
私たちの思い	代表者メッセージ	竹屋化学について	価値創造ストーリー	Laboratory	環境の取り組み	社会の取り組み	ガバナンス構築	進捗情報	今後の展望
--------	----------	----------	-----------	------------	---------	---------	---------	------	-------

コーポレートガバナンス ISO BCP対策 IT・財務ガバナンス コンプライアンス管理

コーポレート・ガバナンス

現代社会においてESGへの意識はかつてないほど高まっており、企業のガバナンスに対する姿勢そのものが、企業価値を左右する極めて重要な要素となっています。このような認識のもと、当社は経営の「効率性」と「透明性」を向上させ、取引先をはじめとするすべてのステークホルダーの皆様視点に立った、持続可能な企業価値の創造に取り組んでいます。この理念を具現化するガバナンス体制として、当社は監査役制度を採用しています。取締役会による迅速な意思決定と、監査役による厳格な監査機能が相互に機能することで、経営の効率性と適法性の双方に重点を置いたモニタリング体制を構築しています。客観的かつ実効性のある監督体制を維持・強化し続けることが、健全な経営基盤を支え、中長期的な成長を実現するための土台であると考えています。

企業統治図



本体制は、会社としての重要事項に関する意思決定および監督の枠組みを示したものです。

※2026年3月現在

竹屋化学研究所 サステナビリティレポート2025

私たちの思い	代表者 メッセージ	竹屋化学に ついて	価値創造 ストーリー	Laboratory	環境の取り組み	社会の取り組み	ガバナンス構築	進捗情報	今後の展望
--------	--------------	--------------	---------------	------------	---------	---------	---------	------	-------

コーポレートガバナンス ISO BCP対策 IT・財務ガバナンス コンプライアンス管理

取締役会

当社の取締役会は、代表取締役を含む取締役7名で構成されています。会社の業務執行に関する意思決定を行う機関です。2025年より取締役を増員し、各部門の長が一堂に会することで、直面する課題に対して取締役一人ひとりが責任と決断力を持ち、会社の方向性を明確に定めるとともに、様々な部門の視点から意見が出され、偏った考え方になることを防ぎ、より幅広い視野で議論を深めています。

具体的には、以下の役割を担い、会社の健全な経営と株主の利益を守るために不可欠な存在です。

業務執行の決定

事業計画、予算、重要な投資や資金調達など、日々の経営に関わる重要事項を決定します。

職務執行の監督

各取締役が適切に業務を遂行し、法令を遵守しているかを監督・チェックします。

	開催日数	議案数
86期	5	11
87期	4	9
88期	5	14
89期	9	42

担当長会議

課長以上の担当者が毎月集まり、日々の取り組み事項の報告と重要事項の協議及び審議を行っています。オンラインでも参加できる環境を整え参加しやすいよう取り組んでいます。

また、社長より財務情報の報告や今後の会社の動きなど幅広い内容の話があり、社員一人一人が経営意識を持てるようにしています。

その結果、社員は自らの業務が会社全体に与える影響を深く理解し、より高い当事者意識を持って日々の業務に取り組んでいます。

情報共有と意思決定の促進

経営層から発信された内容を、各担当長が直接受け取り、自分の言葉で現場に持ち帰ることができます。これにより、ニュアンスのズレや熱量の低下を防げます。また決定された内容について、各部門での具体的な実行計画や次のアクションをその場で共有・調整できるため、実行へのスピードが上がります。

組織力の強化と一体感の醸成

普段接点のない部署の担当長同士が意見交換することで、相互理解が深まり、部門間の連携がスムーズになります。例えば、開発部が営業部の意見を聞くことで、製品改善のヒントを得るなど、新たな発見につながります。議論し合うことで部門を超えたリーダーシップ(シェアド・リーダーシップ)が育まれ、組織のレジリエンスが強化されます。

問題発見と改善活動の推進

現場の課題や問題に直接触れている担当長から、現状では顕在化していない問題や課題が提起されやすくなり、組織全体の重要な改善点を見つける機会になります。

その他に定期的に会議を開催することで、進捗状況や経営状況をリアルタイムで把握し、計画からの大きな乖離が見られた場合に、早期に軌道修正を行うことができます。

竹屋化学研究所
サステナビリティレポート2025

私たちの思い	代表者メッセージ	竹屋化学について	価値創造ストーリー	Laboratory	環境の取り組み	社会の取り組み	ガバナンス構築	進捗情報	今後の展望
--------	----------	----------	-----------	------------	---------	---------	---------	------	-------

コーポレートガバナンス ISO BCP対策 IT・財務ガバナンス コンプライアンス管理

ISO

当社は、お客様に最高の価値を提供するため、国際標準化機構(ISO)が定めるISO 9001:品質マネジメントシステムの認証を取得し、その運用を徹底しています。この認証は、製品・サービスの設計から開発、製造、販売に至る全てのプロセスにおいて、国際的に認められた品質管理基準を満たしていることを客観的に証明するものです。当社はこれからも、ISO 9001に準拠した品質マネジメントシステムを堅持し、お客様への責任を果たすとともに、持続可能な社会の実現に貢献していきます。

ISO 9001認証情報

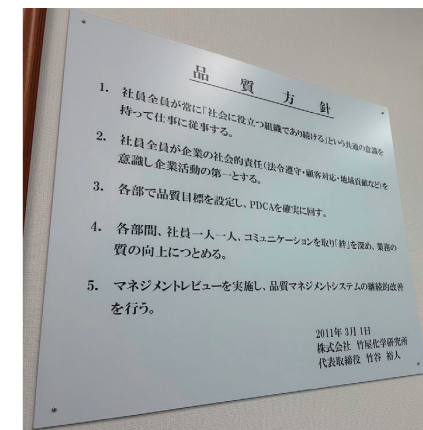
取得日: 2004年3月10日

認証範囲: 建築用ポリマーセメント、接着剤、着色塗材、混和剤の設計・開発及び製造

認証機関: INTERTEK

品質方針

1. 社員全員が常に『社会に役立つ組織であり続ける』という共通の意識を持って仕事に従事する。
2. 社員全員が企業の社会的責任(法令遵守・顧客対応・地域貢献など)を意識し企業活動の第一とする。
3. 各部署で品質目標を設定し、PDCAを確実に回す。
4. 各部署間、社員一人一人、コミュニケーションを取り『絆』を深め、業務の質の向上に努める。
5. マネジメントレビューを実施し、品質マネジメントシステムの継続的改善を行う。



各部署の品質目標

部署	目標
品質管理部	顧客からの品質クレーム 0件 ISO9001や安全衛生などに関わる資料の掲示
	ISO9001や安全衛生などに関わる資料の掲示 6件以上
開発部	設計テーマを3件以上完了する(新規、改良含む)
	新規原材料の情報収集及び基礎研究を5種以上行う(環境配慮、BCP対策など) SDGs目標関連製品の今期進捗率を達成する。
営業部	売上11億円以上
業務部	出荷ミスによる不適合発生 0件
	ペーパーレス化を推進する為の提案
製造部	製造部における不適合発生 0件
	製造部における労働災害 0件
	製品の廃棄処分 0件



竹屋化学研究所 サステナビリティレポート2025

私たちの思い	代表者 メッセージ	竹屋化学に ついて	価値創造 ストーリー	Laboratory	環境の取り組み	社会の取り組み	ガバナンス構築	進捗情報	今後の展望
--------	--------------	--------------	---------------	------------	---------	---------	---------	------	-------

コーポレートガバナンス ISO BCP対策 IT・財務ガバナンス コンプライアンス管理

BCP

当社では、「いつ想定外の災害が起こってもおかしくない」という認識のもと、BCPに対する基本方針・行動指針を設けています。また、災害対策本部を組織し、本社および事業所の自然災害における被災時の事業継続に関するBCP規程を策定しています。災害が発生すると、代表取締役社長を本部長として、災害対策本部が設置されます。

工場などが被災した際のバックアップ体制の整備、地震などの自然災害やパンデミック、爆破予告などに対しては、対応体制と行動マニュアルを策定し、迅速かつ的確に現場で何をすべきかを明らかにしています。また、本社被災時には、滋賀工場を代替本社とし、会社の事業を継続します。

取り組み内容の一例

- ・引継ぎ用の簡易マニュアルの整備および多能工化の推進
- ・リモートワーク(在宅勤務)、時差出勤・交代制勤務等の柔軟な勤務体制の準備
- ・業務システムのクラウド化
- ・サーバーを大阪と滋賀に設置し二重化
- ・原材料・製品については、常時約1カ月分の在庫を保有・仕入先の分散化

消防訓練(滋賀・本社)、救命救急研修(滋賀)

年に1度の消防訓練を実施して、避難経路と消火器の設置場所の確認をしております。また、消火器の練習なども同日に行っています。実施後は報告書を作成しPDCAを回転させ、より質の高い訓練を心掛けています。その他に救命救急研修として本社、工場ともにAEDを設置して外部講習を受講するなど使用方法を身につけています。

災害訓練

オンラインの避難訓練を年2回実施し、緊急時に迅速に的確な行動が取れるようにトレーニングをしています。

感染症拡大時の対応

- ・手洗い・うがいの徹底
- ・従業員へのマスクの着用を義務づける
- ・消毒が必要と考えられる設備、事業所等の場所へ店内の消毒の徹底
- ・出張規制と来訪者の訪問の禁止の検討



私たちの思い	代表者 メッセージ	竹屋化学に ついて	価値創造 ストーリー	Laboratory	環境の取り組み	社会の取り組み	ガバナンス構築	進捗情報	今後の展望
--------	--------------	--------------	---------------	------------	---------	---------	---------	------	-------

コーポレートガバナンス ISO BCP対策 IT・財務ガバナンス コンプライアンス管理

ITガバナンス

ITガバナンスとして社員の意識向上と物理的、技術的な防御を統合して実施しています。人的対策として、定期的に従業員に研修を実施し、個人情報保護の意識を高めています。

物理的対策では、個人情報エリアへの入退室を制限し、書類は施錠保管・専用シュレッダーで破棄しています。技術的対策では、情報システムへのアクセス権限を最小限に限定し、アクセスログを監視します。また、データベースや通信経路を暗号化することで情報漏洩リスクを低減し、ファイアウォールや最新のウイルス対策ソフトを導入して外部からのサイバー攻撃に備えています。これらの統合的な取り組みにより、個人情報の安全性を確保し、信頼性を維持しています。



財務ガバナンス

①内部統制システムの強化

承認フローの整備、ITシステムのアクセス制限など、財務報告の信頼性を高め、不正や間違いを防ぐための仕組みを構築・運用します。

②透明性の高い情報開示

財務情報だけでなく、環境・社会・ガバナンスに関する非財務情報も含め、株主やその他のステークホルダーに対して正確かつ分かりやすく情報を開示します。業績、不祥事など重要な経営情報を発生後、速やかにHPで開示します。

③良好な金融機関との取引関係

当社は複数の金融機関と日頃から良好な関係を築き、リスク分散と安定した資金調達につなげています。各行の特色や提供サービスも上手く活用しながら、事業を広げるための新たな機会の創出にも取り組んでいます。

また、適切な情報開示を行いつつコミットメントラインを設定することで、景気の変化や予期せぬ事態により急な資金が必要になった場合でも、スムーズに資金を確保できる体制を整えています。

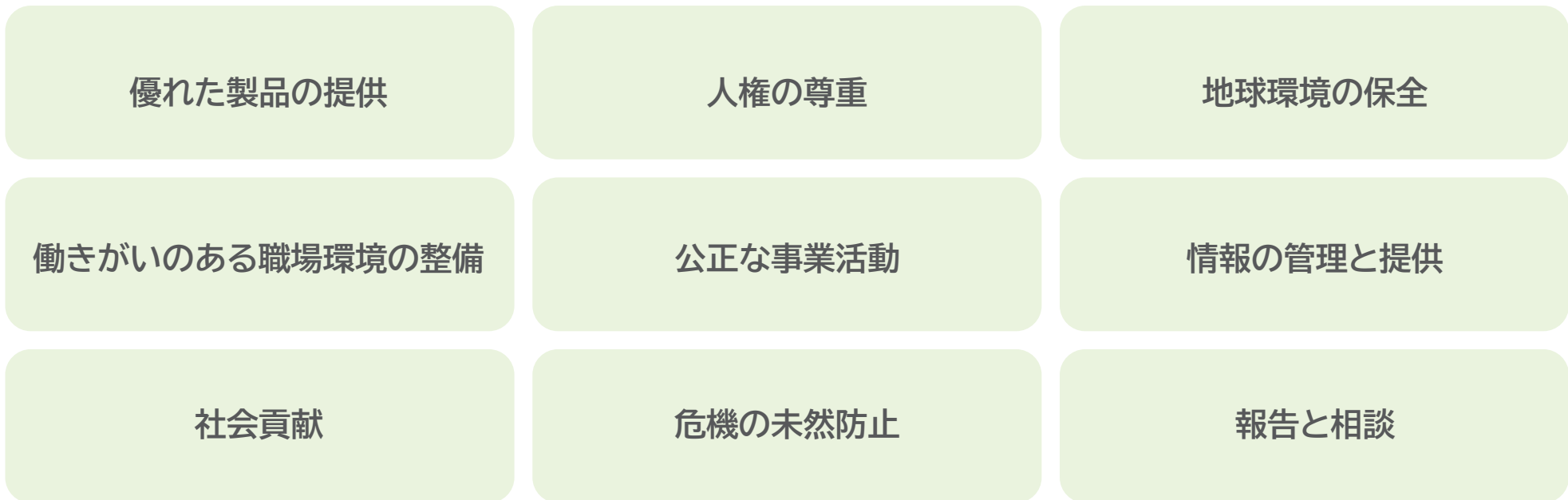


私たちの思い	代表者 メッセージ	竹屋化学に ついて	価値創造 ストーリー	Laboratory	環境の取り組み	社会の取り組み	ガバナンス構築	進捗情報	今後の展望
--------	--------------	--------------	---------------	------------	---------	---------	---------	------	-------

コーポレートガバナンス ISO BCP対策 IT・財務ガバナンス **コンプライアンス管理**

コンプライアンスの徹底

企業倫理行動方針を作成しています。9つのカテゴリから構成され、この方針は、企業の信頼性を高め、持続的な成長を実現するため、企業活動のすべての側面における倫理的な基準と責任を定めています。全役員および従業員は、この方針を日々の業務における普遍的な指針として深く理解し、実践することを誓約します。私たちは、この9つのカテゴリに示された倫理基準と行動規範を遵守することで、法令や社会規範を尊重し、公正かつ透明性の高い事業活動を徹底します。これにより、すべてのステークホルダーからの信頼を確固たるものとし、より良い社会の実現に貢献し続ける企業であり続けます。



竹屋化学研究所 サステナビリティレポート2025

私たちの思い	代表者 メッセージ	竹屋化学に ついて	価値創造 ストーリー	Laboratory	環境の取り組み	社会の取り組み	ガバナンス構築	進捗情報	今後の展望
--------	--------------	--------------	---------------	------------	---------	---------	---------	------	-------

竹屋化学研究所SGDsアクションプラン2030



社会的責任指針

竹屋化学研究所は、経営活動を通して、社会に対して責任を果たし、社会とともに発展していくために以下の指針を掲げます。

- ・再生可能エネルギーの使用割合を拡大させ、地球温暖化対策に取り組みます。
- ・廃棄物と廃水の削減に努め、環境課題の解決に貢献します。
- ・長く安心して暮らせる、製品開発への努力を続けます。
- ・社会環境の変化に対応し、より高品質な製品開発に挑戦します。
- ・安心して働き続けられる職場環境作りに取り組みます。

竹屋化学研究所は、SDGsの17目標とISO 26000を基盤とし、バリューチェーンマッピングやマテリアリティ分析を通じて、自社のリスクと機会を整理しています。これにより、取り組むべき重要課題(マテリアリティ)と重要施策を明確化しました。特に、ステークホルダーにとって重要度の高い5つの取り組みを「これからの重点施策」として選定し、「SDGsアクションプラン2030」に反映しています。これらの目標は社会課題への適応を目的として、毎年見直しを行う計画です。

当社は、経営理念を基盤とした戦略重視型の経営戦略を構築しています。この度、これまでの経営戦略策定プロセスに、持続可能な開発目標(SDGs)の達成に向けた組織的な取り組みの観点を正式に追加しました。これにより、本業を通じた社会課題の解決を事業計画の中に明確に位置付け、これをビジネスパフォーマンスの重要な評価軸の一つとして取り組みを推進していくことをここに宣言します。









竹屋化学研究所
サステナビリティレポート2025

私たちの思い	代表者 メッセージ	竹屋化学に ついて	価値創造 ストーリー	Laboratory	環境の取り組み	社会の取り組み	ガバナンス構築	進捗情報	今後の展望
--------	--------------	--------------	---------------	------------	---------	---------	---------	------	-------

竹屋化学研究所SGDsアクションプラン2030

環境 | 温室効果ガスの削減
循環型資源の活用



インプット	目標	2025年実績
 	コンクリートの長寿命化による CO ₂ 排出量の削減	ハウスシューズ販売促進活動推進
	再生エネルギー利用率向上による CO ₂ 排出量の削減	FBプロテクト採用獲得 再エネ電力100%契約
   	CO ₂ 排出量削減を目的とした、 納入方法の確立	まとめ配送の取り組み強化
	廃棄物、廃水の削減による 循環型ビジネスモデルの構築	バイオマス灰、廃陶器屑による 再利用原料の新製品リリース
	再生原料を使用した梱包材による 循環型ビジネスモデルの構築	再生ビニール、再生紙を使用した、 副資材の積極採用 PPバンドの廃止

進捗情報

竹屋化学研究所
サステナビリティレポート2025

私たちの思い	代表者 メッセージ	竹屋化学に ついて	価値創造 ストーリー	Laboratory	環境の取り組み	社会の取り組み	ガバナンス構築	進捗情報	今後の展望
--------	--------------	--------------	---------------	------------	---------	---------	---------	------	-------

竹屋化学研究所SGDsアクションプラン2030

社会 | 住まいや防災に役立つ製品を作り出す
持続可能は工法や新しい使い方を広げる
外部との連携を深める



インプット	目標	2025年実績
<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="background-color: #e67e22; padding: 5px; text-align: center;"> 9 産業と技術革新の 基盤をつくらう </div> <div style="background-color: #2c3e50; padding: 5px; text-align: center;"> 17 パートナーシップで 目標を達成しよう </div> </div>	安全・安心な住環境づくりに 貢献する技術開発	FBプロテクトの使用方法 拡大に向けた施工検証
	新しい発想による持続可能な 製品・工法の創出	職人人口減少に対応した 乾式工法の確立
	協働と連携による社会課題の解決	ESG経営に注力する企業との連携強化
<div style="background-color: #e74c3c; padding: 5px; text-align: center;"> 5 ジェンダー平等を 実現しよう </div>	子育て世代に限らず、 すべての従業員が安心して 幸せに働き続けられる環境づくり	「幸せデザインサーベイ」の実施 各種社内アンケートによる 意見収集と改善活動 就業規則への新规定反映

竹屋化学研究所 サステナビリティレポート2025

私たちの思い	代表者 メッセージ	竹屋化学に ついて	価値創造 ストーリー	Laboratory	環境の取り組み	社会の取り組み	ガバナンス構築	進捗情報	今後の展望
--------	--------------	--------------	---------------	------------	---------	---------	---------	------	-------

10年後の竹屋化学研究所 | サステナビリティレポート 制作者座談会

ESGという言葉が広く使われる以前から、自然体で社会と事業の持続可能性を両立させてきた竹屋化学研究所。これから先、どのような価値を社会に提供し、どのような会社であり続けたいのか。「10年後の竹屋化学」をテーマに、竹谷副社長と本レポートの制作メンバーが語り合いました。

レポート制作、お疲れさまでした。長期間にわたる制作でしたが、率直にいかがでしたか？

全員：想像以上に大変でした(笑)。

幸田さん：普段の業務では意識しないことも、立ち止まって深く考える良い機会になりました。

北村さん：改めて竹屋化学は本当にいろいろなことにチャレンジしている会社だと実感しました。

西前さん：特に思い入れがあるのは、製造設備や製品ができるまでの流れをまとめたページです。前回の制作メンバーから「今年こそはぜひ作ってほしい」と言われていたので、その約束を果たせてよかったです。

竹谷美希さん：今回のレポートの大きなテーマでもある「L(Labo)」については、何度も話し合って悩み抜きました。最終的に全員が納得できる意味に辿り着けたことが、とても嬉しかったです。

竹谷副社長：みんな本当に前向きで、「そこまで頑張るの？」と心配になるほどでした(笑)。でも、当初私が想像していた以上に、広がりのあるレポートに仕上げてくれたと思います。

10年後、竹屋化学はどんな価値を提供している会社になっていると思いますか？

北村さん：やはり、安全・安心な製品ですね。特に環境に配慮した製品で、業界をリードしてほしいです。

竹谷美希さん：世の中はSDGsのさらにその先を目指しているはずですが、竹屋化学は、それをいち早く取り入れて、まだ世の中が気付いていない価値を提供し始めている気がします。

幸田さん：衣・食・住の「住」に関わっていることに、私は誇りを感じています。10年後にはまだ難しいかもしれませんが、いつか宇宙の「住」を支えるような存在になれば…夢は大きく持ちたいですね。

西前さん：循環型製品の取り組みがさらに広がり、住宅分野以外にも価値を提供しているかもしれません。竹屋化学は“粉のスペシャリスト”なので、化粧品など「衣」の分野もあり得ると思います。

竹谷副社長：こうして意見が自然に出てきて、それが製品やサービスに変わり、「竹屋化学にしかできない価値」になっていく。10年後、そうなっていたら素敵ですね。



左手前から
西前さん、幸田さん、竹谷副社長、北村さん、竹谷(美)さん

これからも竹屋化学が持続的であるために、どんな企業であるべきでしょうか？

北村さん：意思決定のスピード感ですね。

それと、短期的な利益だけでなく、長期視点で考える文化を大切にしたいです。

西前さん：風通しの良さです。のびのび働けるこの雰囲気は、ずっと守っていききたいですね。

幸田さん：人情と心意気。社員を大切にする風土は、竹屋化学の大きな財産だと思います。

ボトムアップで意見を出せる雰囲気も、これからさらに育てていききたいです。

竹谷美希さん：本当にそうですね。今もありませんが、もっともっと強くしていきたいです。

竹谷副社長：竹屋化学は、変わり続けることで生き抜いてきた企業です。

これからも、変わることを恐れない会社であり続けたいと思います。

発行日 2026年3月16日

執筆者
製造部 幸田 修一郎
開発部 竹谷 美希
業務部 西前 里彩
経営企画室 北村 篤史

取材協力
竹谷社長 竹谷副社長 石野取締役 榎次長

写真提供
社員の皆様